

平成 24 年度 ヒヤリ・ハット調査
「日常生活に潜むやけどの危険」
(インターネットアンケート)

平成 26 年 2 月

東京都生活文化局消費生活部生活安全課

目 次

調査概要

- 1 調査目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

調査結果

- 1 「やけど」の危害又はヒヤリ・ハット経験の有無・・・・・・・・ 4

- 2 「やけど」の危害又はヒヤリ・ハットを経験した場所・・・・・・・・ 5

- 3 住宅におけるやけどについて
 - (1) 住宅におけるやけどを経験した場所・・・・・・・・・・・・ 6
 - (2) 住宅におけるやけどの危害程度・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (3) 台所におけるやけどについて・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - (4) 居間・居室等におけるやけどについて・・・・・・・・・・ 2 1
 - (5) 浴室・洗面所・トイレ等におけるやけどについて・・・・ 2 9
 - (6) 寝室におけるやけどについて・・・・・・・・・・・・・・ 3 4

- 4 外出時におけるやけどについて
 - (1) 職場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 7
 - (2) 飲食店・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 7
 - (3) 屋外・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 8

- 5 やけどに至りそうな製品、サービスについて・・・・・・・・ 3 9

- 6 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 0

調 査 概 要

1 調査目的

ケガや発火・発煙等の事故や実際にはケガには至らなかったが、「ヒヤリとした、ハットした。」というような経験をして、消費生活センターなどへ相談する人はごくわずかで、商品やサービスに起因する事故情報は埋没してしまっている。しかし、これらの情報の中には重大な事故につながるものもあり、事前に対策を講じていれば、事故は防ぐことができたかもしれない。東京都では、このような危害及びヒヤリ・ハット情報をインターネットアンケートにより積極的に収集し、事故防止対策を実施していくために、ヒヤリ・ハット情報分析事業を実施している。

今回は、日常生活に潜むやけどの危険についての調査を、身の回りに潜在する危険を把握する事を目的として実施した。

2 調査概要

(1) 調査対象の条件

都内に在住する満 20 歳以上の男女

(2) 調査対象数

3,000 人

(3) 調査対象の分布

年齢 5 階級（20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代以上）及び男女別の均等割り付け

	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	300	300	300	300	300	1500
女性	300	300	300	300	300	1500

(4) 調査期間

平成 24 年 12 月 13 日(木)～平成 24 年 12 月 17 日(月)

(5) 調査方法

インターネットによるアンケート形式で実施

本報告書における注意事項

- ・表通の比率(%)は、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。したがって、率の合計値が 100%にならない場合もある。
- ・複数回答については、回答者数を母数とし、比率を算出している。したがって、率の合計値が 100%にならない場合もある。
- ・本文中の「ヒヤリ・ハット」とは、けがには至らなかったが、“ヒヤリ”としたり“ハッ”としたことを意味する。
- ・本文中の「危害」とは、けがをしたり、発火・発煙・引火等、重大な事故につながるおそれのあったことを意味する。
- ・各設問は回答者に過去 5 年以内の経験について質問しているものである。

調 査 結 果

1 「やけど」の危害又はヒヤリ・ハットの経験の有無

「やけど」に関する経験の有無について、やけどによる「危害」又は、「ヒヤリ・ハット」経験があると回答した人は、全体の50.9%（1,528人）と半数を超えている。（図1）

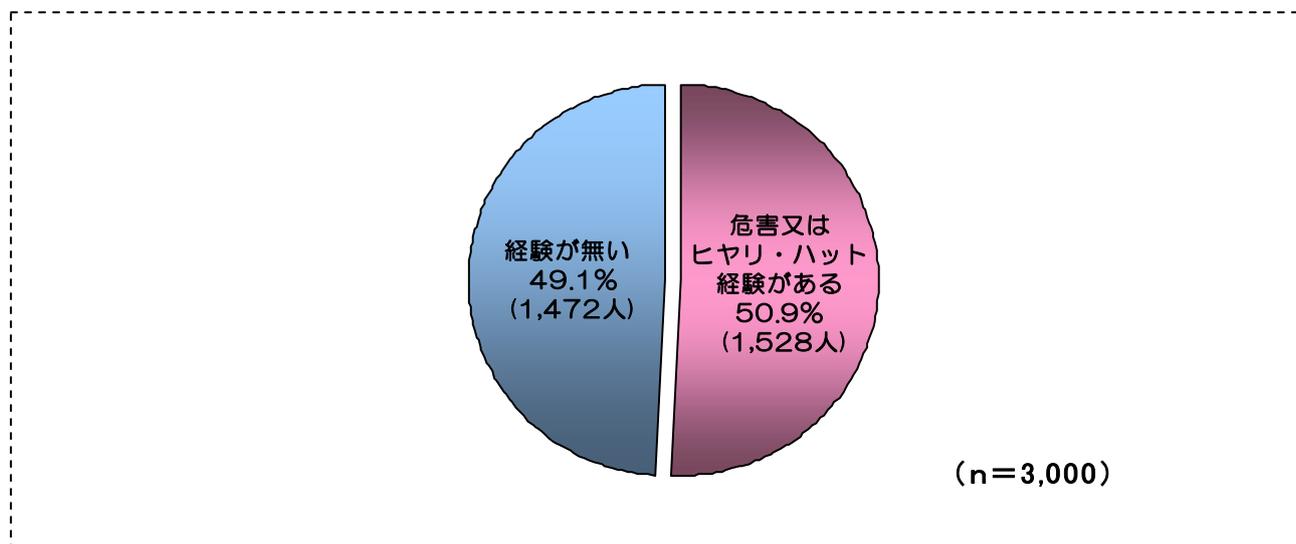


図1 「やけど」に関する危害又はヒヤリ・ハット経験の有無

また、年代別・性別別にやけどの「危害」又は「ヒヤリ・ハット」の経験者数を見ると、男性は40代、50代の経験者が多く、女性は30代、40代に経験者が多く見られるが、年代等による極端な差異は見られない（図2）

一番やけどに関する経験者数が少ないのが20代の男性であるが、調理等、火を扱う機会が少ないことが影響しているのではと推測される。

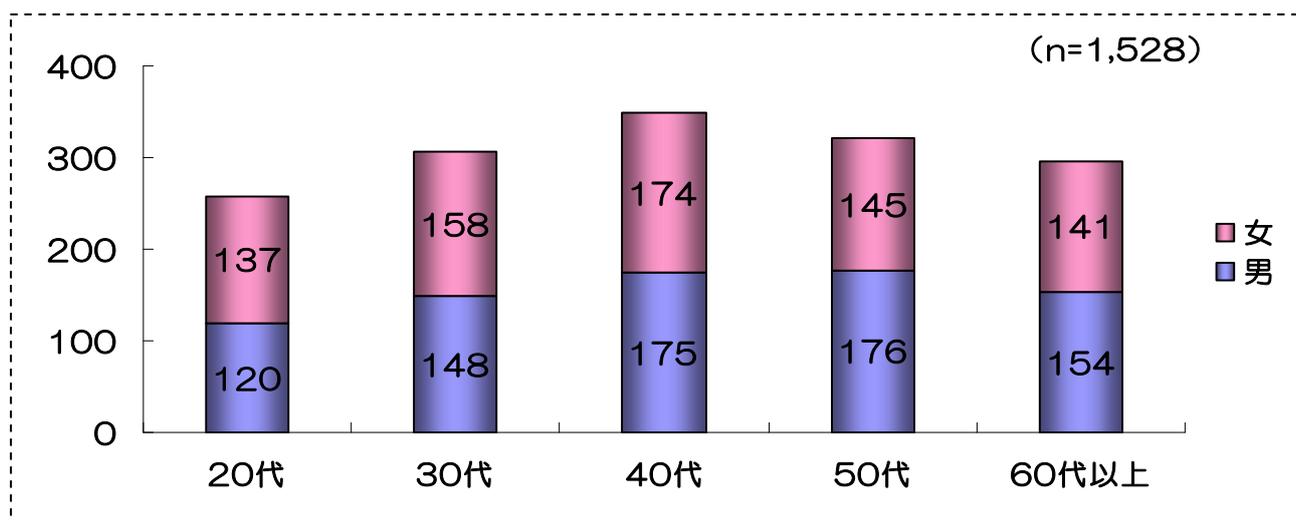


図2 年代別・性別のやけどの危害又はヒヤリ・ハット経験

2 「やけど」の危害又はヒヤリ・ハットを経験した場所

やけどの「危害」や「ヒヤリ・ハット」を経験した1,528人に経験した場所について質問したところ、「住宅」と回答した人が1289人と最も多く、次いで「職場」が220人、「屋外」が130人と続く。なお、「その他」の中には、学校、宿泊施設、自動車等が挙げられる。(図3)

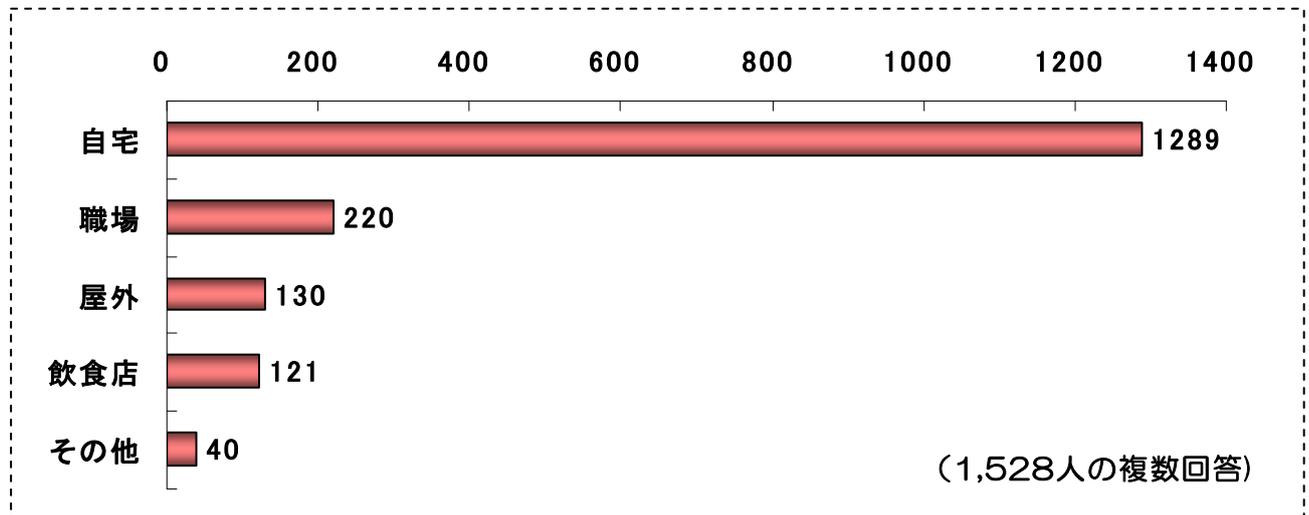


図3 やけどに係る危害又はヒヤリ・ハットを経験した場所

3 住宅におけるやけどについて

(1) 住宅におけるやけどを経験した場所

住宅でやけどの「危害」や「ヒヤリ・ハット」を経験したと回答した1,289人に対し、「台所」、「居間、居室」、「浴室、洗面所、トイレ等」、「寝室」の4項目において、それぞれの場所における経験の有無を質問したところ、台所での経験があると回答した人は1,055人(81.8%)であり、「居間、居室」の365人(28.3%)、「浴室、洗面所、トイレ等」304人(23.6%)、「寝室」133人(10.3%)と比べ極端に多い。(図4)

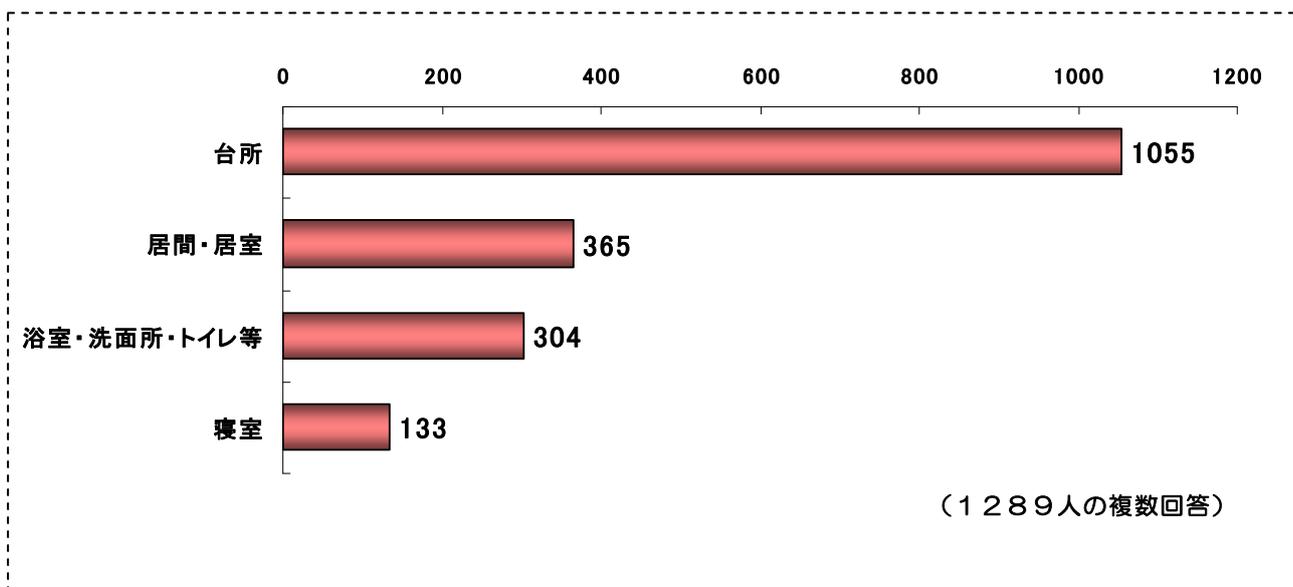


図4 住宅におけるやけどを経験した場所

(2) 住宅におけるやけどの危害程度

住宅におけるやけどの危害、ヒヤリ・ハット経験の危害程度についてみると、ヒヤリ・ハット事例が6割を超えている。

やけどに至ってしまった事例でも受診しなかった事例が3割以上を占めており、医療機関を受診したり、入院に至る事例は3%にも満たない。(図5)

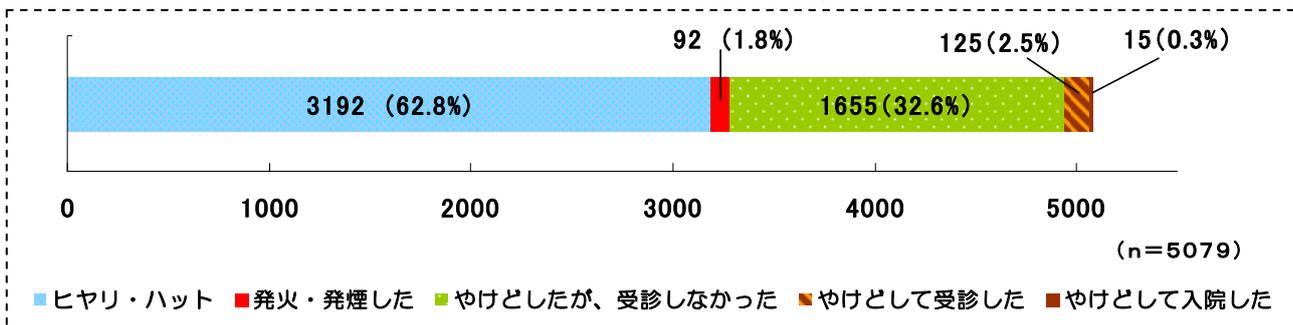


図5 住宅におけるやけどの危害程度

(3) 台所におけるやけどについて

ア 台所におけるやけどの危害またはヒヤリ・ハット経験をした製品

台所において「危害」又は「ヒヤリ・ハット」を経験した1,055人にどのような製品で経験したか質問した。

「鍋」での経験が630件（危害259件、ヒヤリ・ハット371件）、「フライパン」620件（危害312件、ヒヤリ・ハット308件）、「ガスコンロ」492件（危害144件、ヒヤリ・ハット348件）と調理中における事例が多く見られる。（図6）

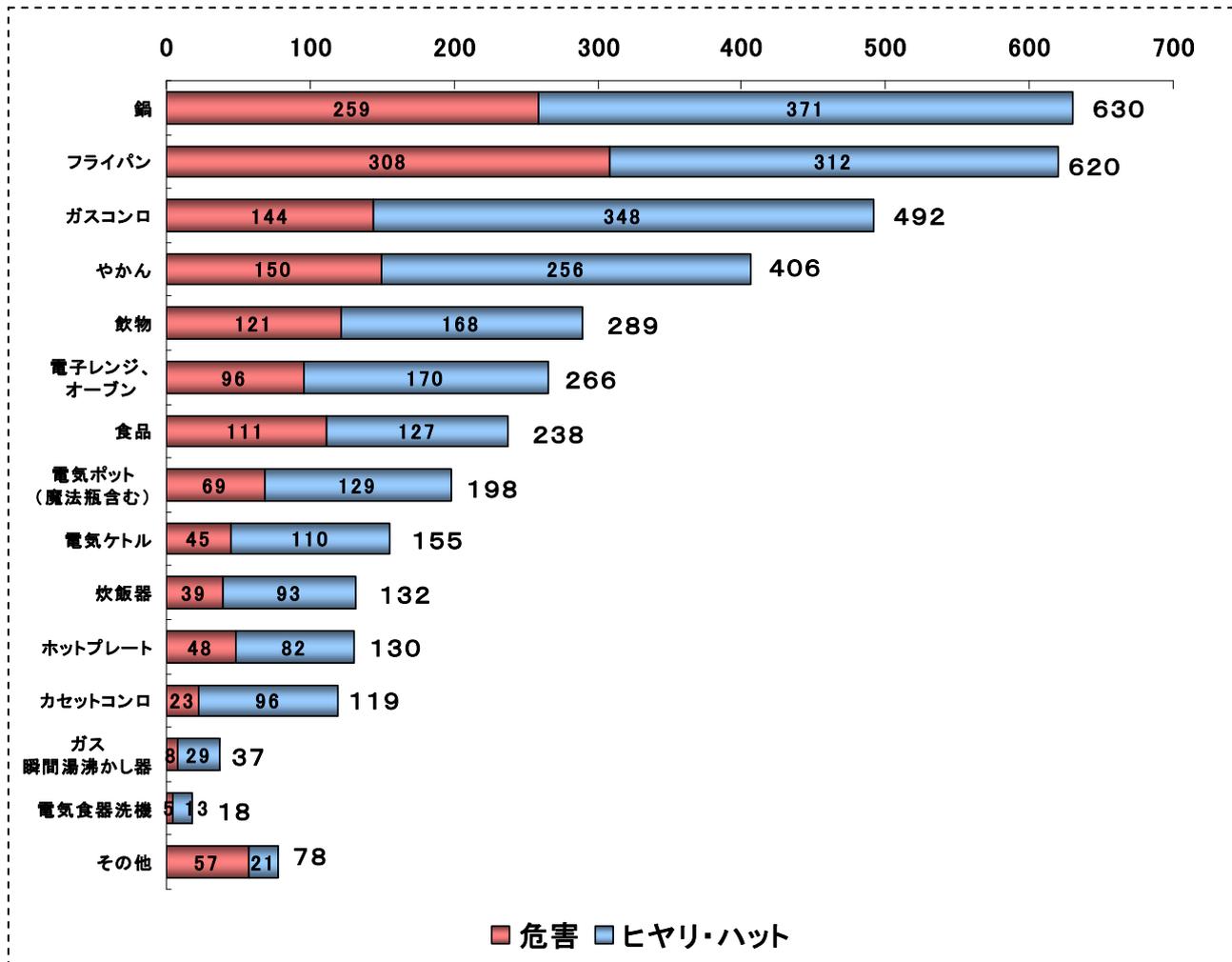


図6 台所用品等によるやけどの危害又はヒヤリ・ハット経験



イ 製品別 やけどの危害、ヒヤリ・ハットの状況

ア)【鍋】

「鍋」によるやけどの危害又はヒヤリ・ハット経験をした詳しい状況については、「熱くなった本体に触れた」が337件と最も多く、次いで「熱くなった取っ手、蓋に触れた」が183件、「中身がはねた」39件と続く。(図7)

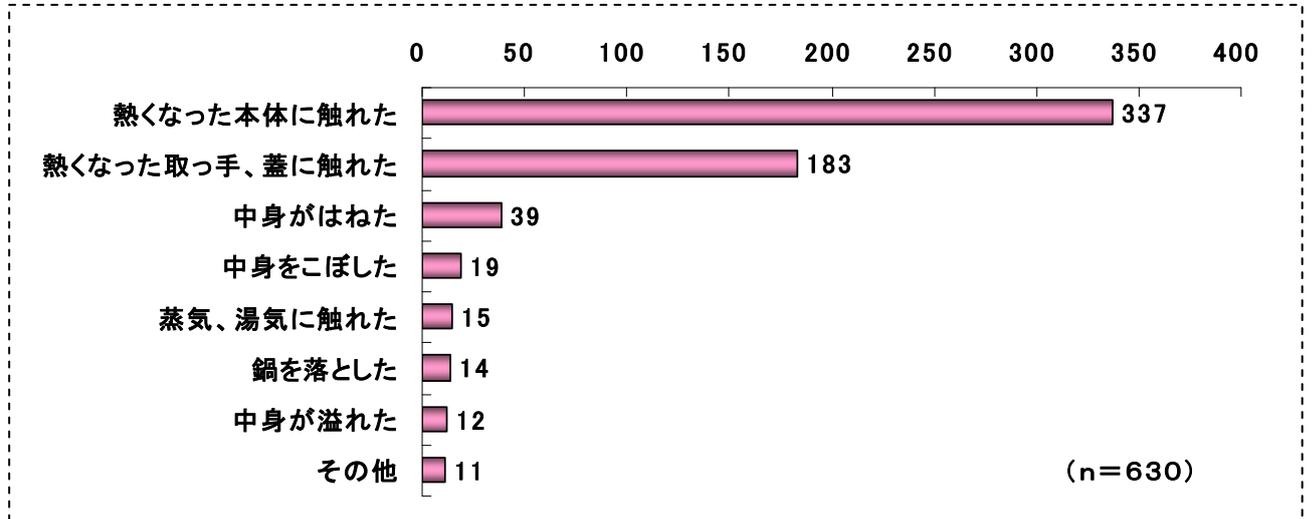


図7 鍋によるやけどの危害、ヒヤリ・ハット経験をした状況

具体的事例

項目	内容	性別	年齢
熱くなった本体に触れた	ダッチオーブンに軍手をして触ったが、軍手に穴が開いていた。	男性	30代
	取っ手のない鍋で、それほど熱くないだろうと、取っ手をつけずに直接手で触ってしまい、ひどいやけどを右指にしました。	女性	40代
	ミトンをしてない片方の手をそえた。	男性	60代以上
熱くなった取っ手、蓋に触れた	3口コンロの手前でシチューを加熱中奥の鍋に手を出して鍋に触れてしまいかなりひどくやけどをした。	女性	20代
	熱くない素材の取っ手のはずが、ある時なぜか高温になっており、素手で触ってしまった。	女性	40代
	鍋を持ち上げたら食材が入って思ったより重く、しっかり持とうとして熱いのに手を離せなかった。	女性	20代
中身がはねた	炎から離れていたのに熱くないと思い取っ手に触れた。	男性	30代
	天ぷら鍋に水分の多い物を入れたら油がはねて首に当たりやけどをした。	女性	30代
	火が燃え上がったので、驚いて鍋から離れた時、油が跳ねてやけどした。	女性	40代
	油が手の甲にはねて、水膨れができた。	男性	40代

イ)【フライパン】

「フライパン」によりやけどの危害又はヒヤリ・ハットを経験した詳しい状況については、「熱くなったフライパンに触れた」が 436 件と最も多く、次いで「油がはねた」が 93 件、「中身をこぼした」が 65 件と続く。(図 8)

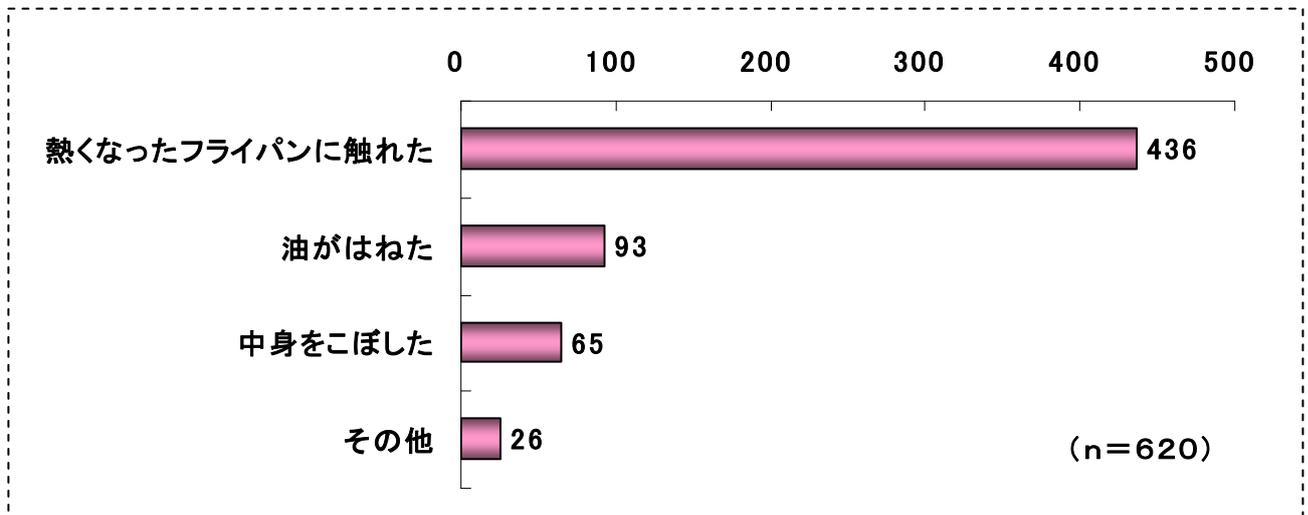


図 8 フライパンによるやけどの危害、ヒヤリ・ハットを経験した状況

具体的事例

項目	内容	性別	年齢
熱くなったフライパンに触れた	調理が終わって水につけて洗おうとしたら、まだ水で十分冷えてなくてやけどした。	女性	20代
	空のフライパンを弱火がついていたガスコンロに載せていたのを忘れ、終おうとしてフライパンの底が冷めていると思い指で触ってしまった(いつも終う時にはフライパンの底が冷めていることを指で触れて確認して不注意で鍋を触ってしまった。	女性	60代以上
		男性	50代
	IHなので簡単にフライパンなどが少しぶつかっただけでくるっとまわるので軽く動いた所に手が触れてや	女性	20代
油がはねた	食材の水分が思ったよりも多かったため、はねた。	男性	30代
	揚げ物をしているときに爆発して油が飛び散った。	女性	20代
	高温の油に水を注いでしまった。	男性	20代
中身をこぼした	取っ手が体にぶつかり回転し、こぼして火傷しそうになった。	女性	50代

ウ)【ガスコンロ】

「ガスコンロ」によるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの詳しい状況については、「調理中の油、食材に触れた」が244件と最も多く、調理中の油やアルコール、水の使用や調理器具の不調等に伴う「急に炎が大きく燃え上がった」が86件、「着衣に着火した、しそうになった」が52件と続く。その他には、「2口ある都市ガスの元栓の使用していない側を開けっ放しにしていた。」や「点火装置が故障していたため、ライターで点火する際にやけどした」等の回答があった。(図9)

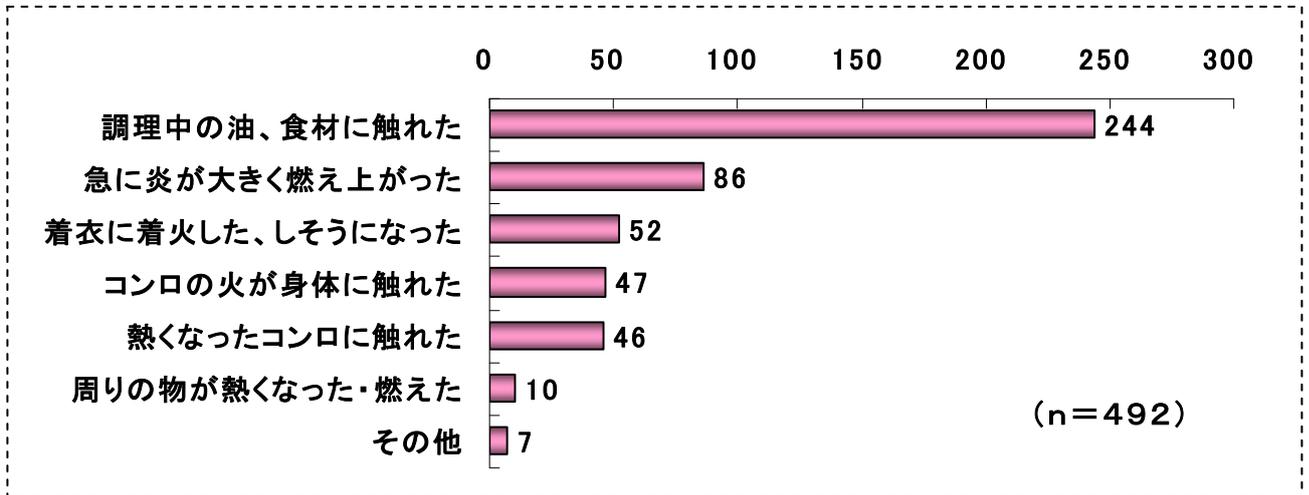


図9 ガスコンロによるやけどの危害、ヒヤリ・ハットを経験した状況



具体的事例

項目	内容	性別
調理中の油、食材に触れた	揚げ物をしているときに油がはねて顔に小さなやけどをした	女性
	天ぷらをしていて、てづかみでかき揚げの具を油にいれていたが、指まで入ってしまった。	女性
	オムライスを作っている時に卵をフライパンに落とした時大きく跳ねて手にやけどをした	男性
急に炎が大きく燃え上がった	熱した少量の油に野菜炒めを作ろうと野菜か肉かを入れたときに大きく炎が燃え上がってびっくりした	男性
	台所でステーキを焼いていてフランベしたところ予想より炎が大きく上がり、換気扇のフィルターを焼いてしまった。	男性
	ガスコンロのスイッチを入れた途端、急に炎が大きく燃え上がった	女性
着衣に着火した	コンロの向こう側に置いていた調味料を取ろうとした時着衣の袖口に引火しそうになりひやりとした。	女性
	後ろを振り返って調味料を取ろうと思ったらシャツの裾に火が移った	男性
	三つ口コンロの一番奥のコンロにかけた鍋を取ろうとしたとき、手前のコンロの火がセーターの袖に移って手首をやけどした。	女性

エ)【やかん】

「やかん」によるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの詳しい状況については、「蒸気、湯気に触れた」が140件と最も多く、次いで「熱くなった本体に触れた」が131件、「注ぐ時にコップ等から溢れた」が108件と続く。(図10)

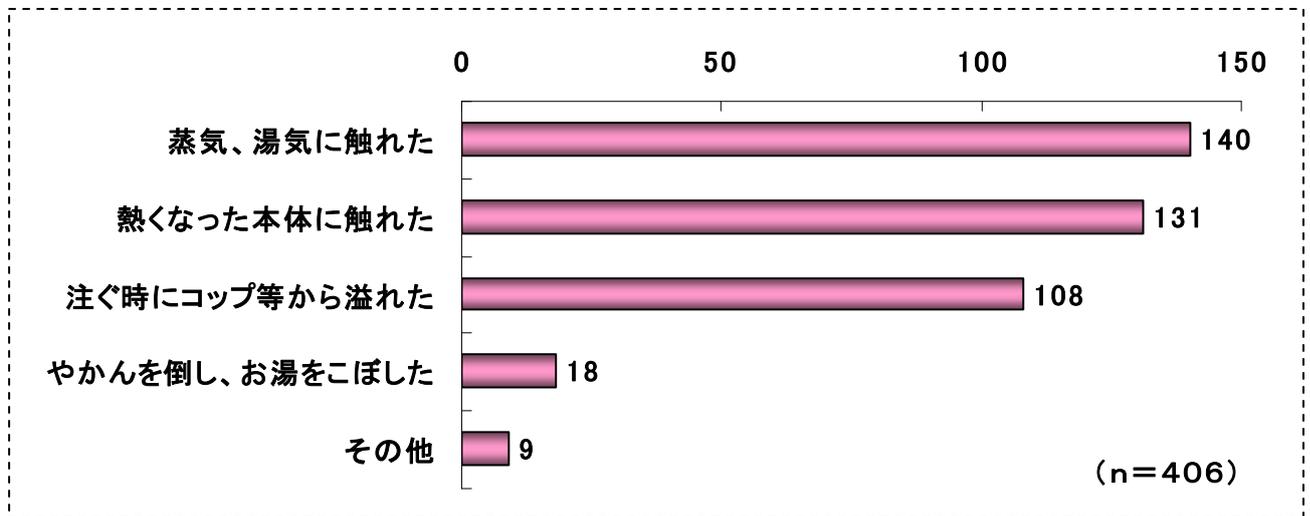


図10 やかんによるやけどの危害、ヒヤリ・ハットを経験した状況

具体的事例

項目	内容	性別	年齢
蒸気、湯気に触れた	何かを取ろうとして、やかんの蒸気の上でうっかり手を伸ばしてしまい、やけどした。	女性	40代
	十分冷まらなかった。	女性	30代
	うっかりふたの空気穴の所に顔を出してしまい、蒸気でやけどしそうだった。	女性	30代
熱くなった本体に触れた	うっかり触れてやけど。	男性	20代
	コンロの廻りを掃除していたら、熱してあったやかんに触れてちよつと熱かった。	男性	30代
	湯を注いだ残りを捨てた後、ふたをはずそうとしたら固かったので力をいれたら本体に触れてしまい左の手のひらをやけどした。	女性	20代
	取っ手が熱く、やけどした。	男性	20代
注ぐ時にコップ等から溢れた	一気に入れようとしてあふれた。	男性	20代
	吸水口が熱せられて、お湯があらぬ方向に行ってしまう、右手をやけどした。	男性	60代以上

オ)【飲物】

「飲物」によるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの詳しい状況については、「飲み物を飲んで」が218件と全体の7割以上(75.4%)を占めている、次いで「飲み物をこぼして」が65件、「飲み物が入っていた容器に触れて」が6件と続いている。(図11)

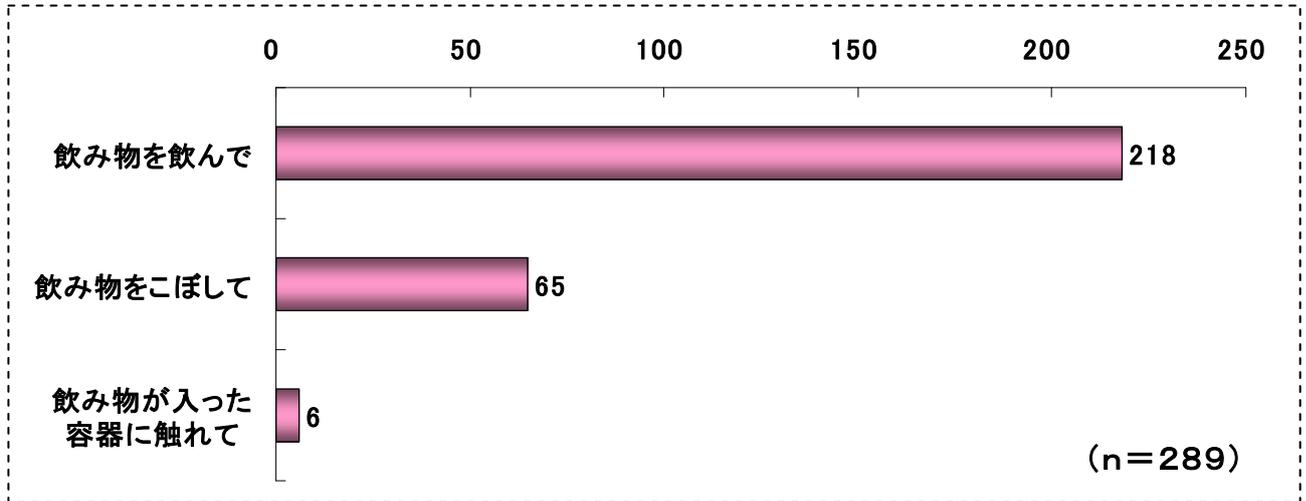


図 11 飲物によるやけどの危害、ヒヤリ・ハットを経験した状況

具体的事例

項目	内容	性別	年齢
飲み物を飲んで	コーヒーなどが熱すぎた。	女性	50代
	高温のコーヒーをすぐに飲もうとしてしまったため、思わず舌をやけどした。	男性	30代
	味噌汁を作っていて味見した時。	男性	60代以上
飲み物をこぼして	熱いお茶を手にこぼして軽いやけどをしました。	男性	50代
	レンジであたためた飲みものをこぼしてしまい、手にかかってやけどした。	女性	30代
	コーヒーをこぼして手にやけどしました。	男性	50代
飲み物が入った容器に触れて	缶コーヒーを缶のままお湯であたためすぎた	男性	40代
	哺乳瓶に熱いお湯を入れ熱湯消毒しようとした際に、熱くなりすぎた哺乳瓶を触ってやけどした。	女性	20代

カ)【電子レンジ・オープン】

「電子レンジ・オープン」によるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの詳しい状況については、「加熱後の容器に触れた」が134件、「食品に触れた」49件、「食物・飲物が破裂し飛び出した」30件と加熱している物による事例が多い(図12)

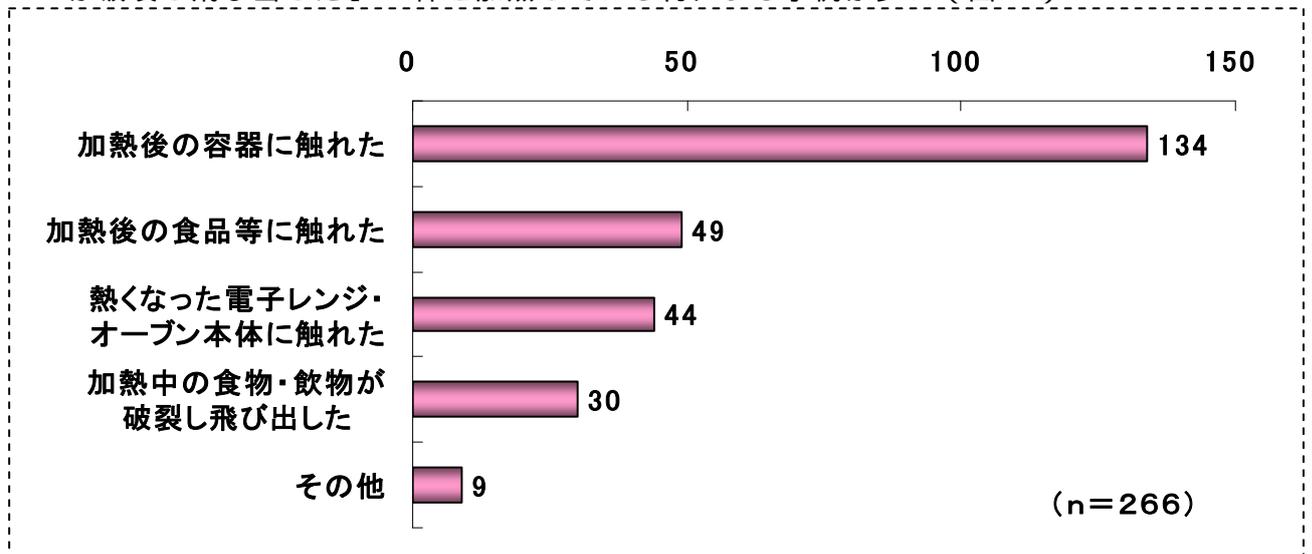


図12 電子レンジ・オープンによるやけどの危害、ヒヤリ・ハットを経験した状況

具体的事例

項目	内容	性別	年齢
容器に触れた	グラタンを取り出したら、すごく熱くてやけどをしそうになりました。	女性	40代
	温め終了後直ぐに触ったら、まだ熱過ぎた。	男性	60代以上
	取り出そうとしたが容器が熱くなっていた。	男性	30代
電子レンジ・オープン本体に触れた	焼けたピザを取り出そうとして、腕が本体に触れた。	女性	40代
	扉のふちに触ってしまった。	男性	50代
加熱中の食物・飲物が破裂し飛び出した	白湯をマグカップで温めたとき、布巾で取っ手をつかんだときにかけていたラップの端を引っ掛けてしまい、開いた小さな隙間から蒸気が吹き出て指に当たった。	女性	50代
	コーヒーをカップで温め直した後、取り出した途端に沸騰して吹き出したが咄嗟に手を外しヒヤッとした。またオープントースターで米粉の餅を焼いたあと醤油をかけた途端に破裂し顔や手に焼けた餅が付きやけどをした。	男性	50代
食品等に触れた	ラップでくるんだ里芋を加熱し取り出した時に、ラップがはがれ湯気で手首をやけどした	女性	20代
	肉まんやあんまんを加熱して中身が熱くなりすぎた。	男性	30代

キ)【食品】

「食品」によるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの詳しい状況については、「食品を食べて」が183件と最も多く、次いで「食品を自分でこぼして」が36人、「食品を自分以外のひとがこぼして」が6件と続く。「その他」の中には、加熱した食品、食器に触れた等が挙げられる。(図13)

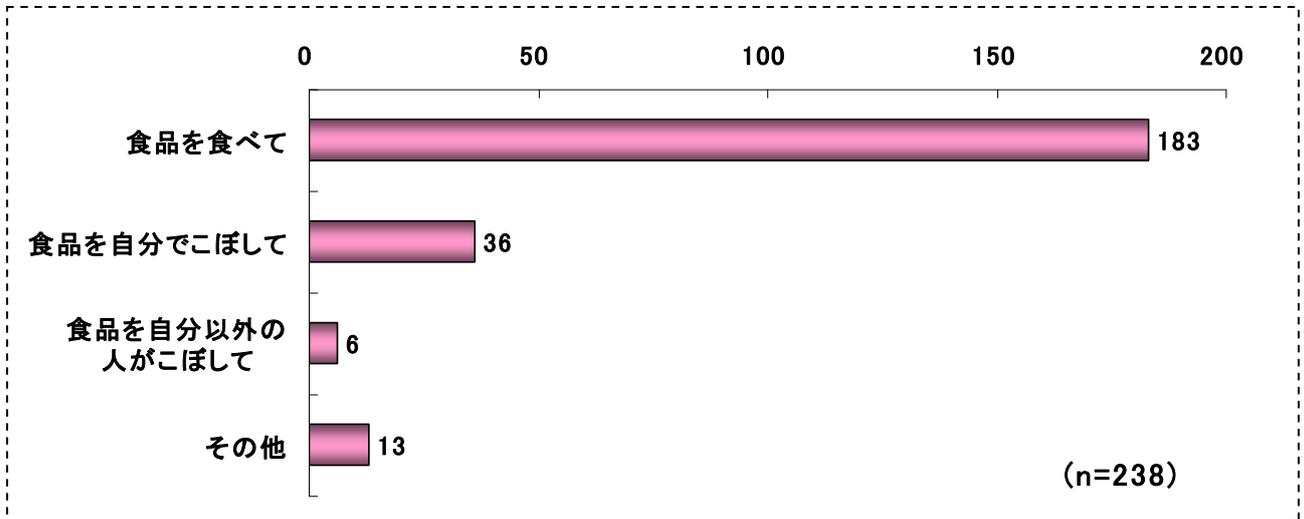


図13 食品によるやけどの危害、ヒヤリ・ハットを経験した状況

具体的事例

項目	内容	性別	年齢
食品を食べて	あんかけラーメンを作り昼食を摂っていた時、冷ましきれていなかったらしく、口に入れたとたん熱くてやけどした。	女性	40代
	たこ焼きの中身が厚くて、口の中をやけどした。	女性	20代
食品を自分でこぼして	みそ汁をうっかりこぼしてしまい、両ももをやけどした。	女性	40代
	カップラーメンを運ぶときに、大きく揺らしてお湯をこぼしてしまい、右手の甲をやけどした。	男性	40代
食品を自分以外の人がこぼして	こどもがスープをこぼしてしまい服にかかった。すぐに冷やしたので軽度ですんだ。	男性	40代



ク)【電気ポット（魔法瓶を含む）】

「電気ポット（魔法瓶を含む）」によるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの詳しい状況については、「蒸気、湯気に触れた」が71件と最も多く、次いで「想像以上に勢いがあり湯に触れた」が55件、「不注意でお湯に触れた」が41件と続く。（図14）

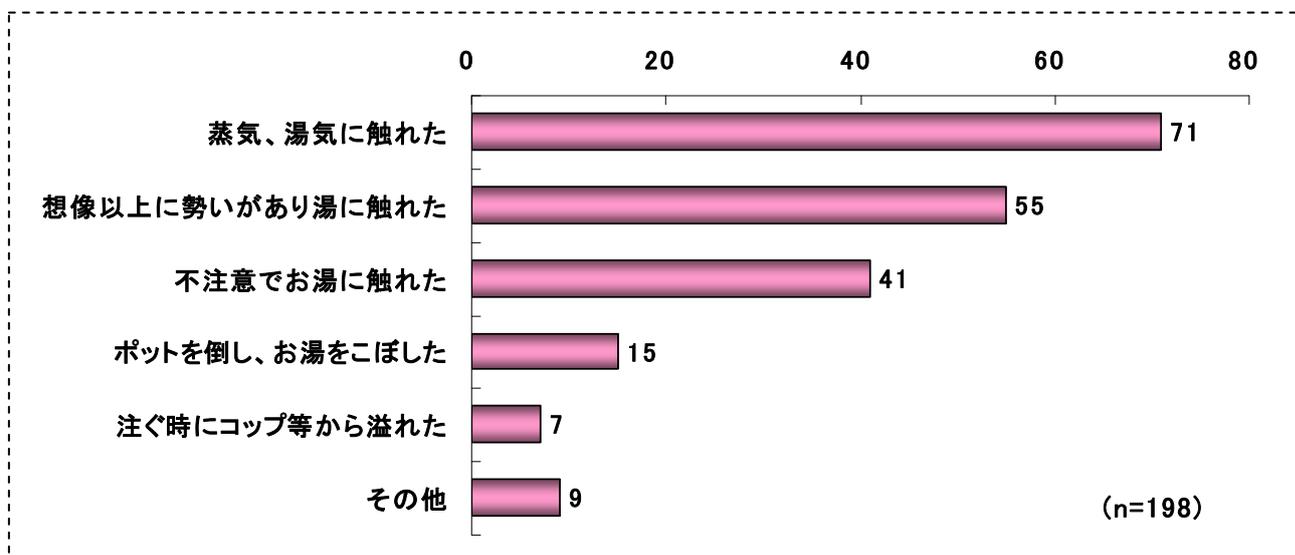


図14 電気ポットによるやけどの危害、ヒヤリ・ハットを経験した状況

具体的事例

項目	内容	性別	年齢
蒸気、湯気に触れた	自動的に6時間ごとに加熱されるようにしているのですが、その時間を把握しておらず吐き出し口の上に手をかざして、軽いやけどをしてしまった。	女性	30代
	加熱中に蒸気に触れてしまい、やけどした。	女性	20代
想像以上に勢いがあり湯に触れた	お茶を注ぐ時に勢い良くお湯が出てきたので、手に触れた。	女性	20代
	湯たんぽにお湯を入れてるときに吹きこぼれてきて手にかかった。	女性	20代
不注意でお湯に触れた	暗い中でお湯を注ごうとしたとき、お湯の出口を間違えて、指にお湯がかかりそうになった。	男性	40代

ケ)【電気ケトル】

「電気ケトル」によるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの詳しい状況については、「蒸気、湯気に触れた」が52件と最も多く、次いで「不注意で湯に触れた」が40件、「想像以上に勢いがあった」が27件、「ケトルを倒し、湯をこぼした」が20件と続く。

(図15)

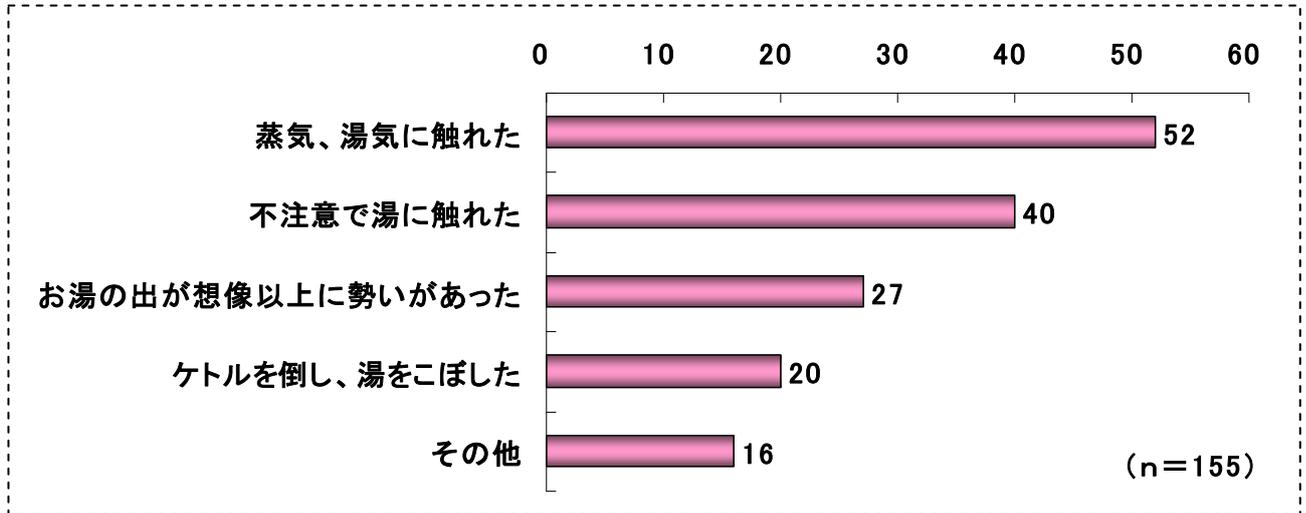


図15 電気ケトルによるやけどの危害、ヒヤリ・ハットを経験した状況

具体的事例

項目	内容	性別	年齢
蒸気、湯気に触れた	温まりたくて手をかざしたら予想以上に熱かった。	男性	40代
	注ぎ口の開閉ボタンを押そうとしたら、蒸気逃がしの口の上を手が通過し、やけどした。	男性	40代
	湧く前に止めようと思い熱さを確認しようとして蓋を開けた時。	女性	40代
不注意でお湯に触れた	まだスイッチを入れていないと思い確認のつもりで触ったら沸騰後だった。	女性	60代以上
	沸騰した時に湯の量が少なかったのでふたを開けて追加しようとした時に湯がかかった。	男性	60代以上
	カップめん作る為お湯を注いでいるとき、手の甲にお湯がかかってしまい軽いやけどをした。	男性	50代
想像以上に勢いがあった	お湯を注ぐときにフタがきちんとしまっていないで、ふたの隙間からお湯が大量にでてきました。瞬間的に手を体を引いたのでやけどにはあたりませんでした、ヒヤッとしました。	女性	40代
	紅茶の湯をわかすために電源を入れたところ、注ぎ口から沸騰後のお湯が突然、噴きこぼれた。	女性	20代
	そそぐときに勢いよくお湯が出て手にかかった。	男性	30代



コ)【炊飯器】

「炊飯器」によるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの詳しい状況については、「蒸気口に触れた」が105件と大半を占めている。

蒸気に触れた事例を見てみると、「蒸気口に手を触れた」、「顔を近づけた」等、炊飯中の場合が多いが、蓋を開けた際に「顔に蒸気が当たった」、「熱い蒸気が手に当たった」等、炊飯が終わった後でも蒸気による危険があることがわかる。

蒸気以外では、「内釜に触れた」が17件、「中身のご飯等の食品に触れた」10件という事例が挙げられている。(図16)

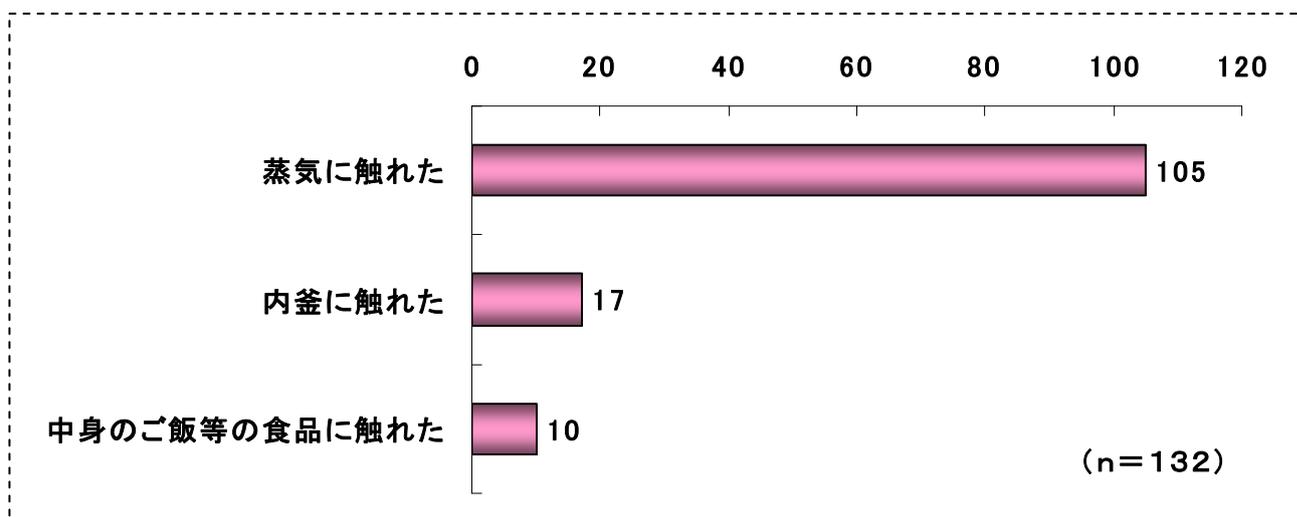


図16 炊飯器によるやけどの危害、ヒヤリ・ハットを経験した状況

具体的事例

項目	内容	性別	年齢
蒸気に触れた	炊飯器の蒸気が出る口に誤ってさわってしまった	男性	50代
	蒸気が出る所に誤って顔を近づけてしまい、やけどしそうになった。	女性	30代
	床に置いていた炊飯器の蒸気が出る部分が足の脛にかかってやけどした	女性	40代
	蓋を開けた瞬間の湯気でやけどしそうになった。	女性	50代
内釜に触れた	保温解除から時間がたっていないことを忘れて洗うために素手で内釜を取り出そうとしてしまった	男性	50代
	ご飯をよそうときに触ってしまった	女性	20代
ご飯等の食品に触れた	ごはんを混ぜるときに、あついご飯が手に触れた	女性	40代
	しゃもじからご飯がこぼれて手に触れてしまいやけどした。	男性	20代

サ)【ホットプレート】

「ホットプレート」によるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの詳しい状況については、「熱くなったホットプレートに触れた」が 86 件と最も多く、次いで「油がはねた」が 43 件となっている。(図 17)

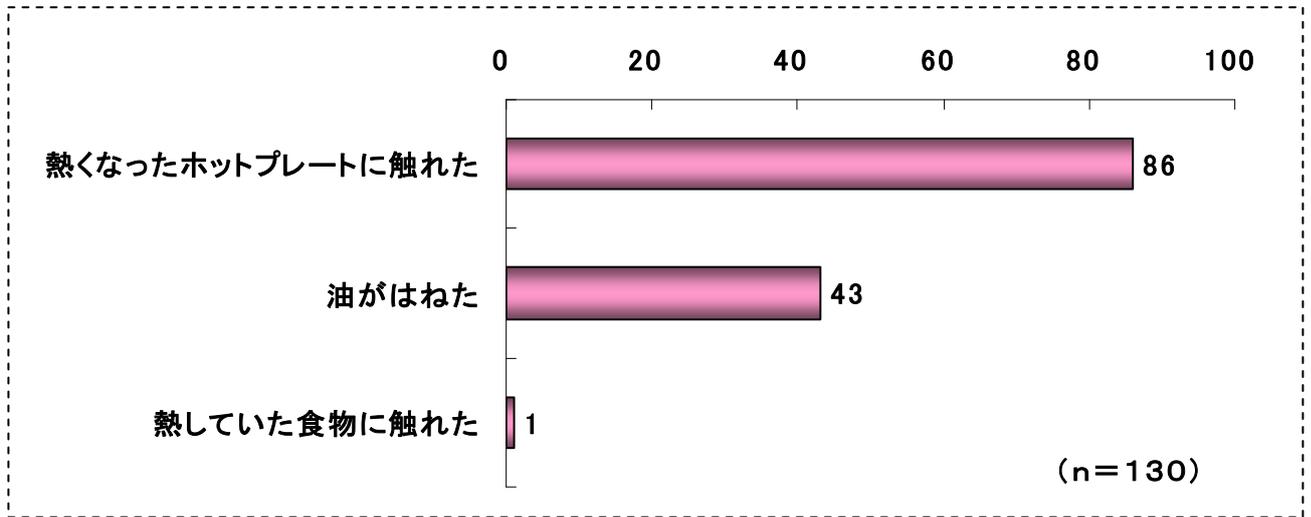


図 17 ホットプレートによるやけどの危害、ヒヤリ・ハットを経験した状況

◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
熱くなったホットプレートに触れた	片づけの際に、誤ってまだ熱いプレートに触れた。	男性	40代
	熱くなったホットプレートの周りに触れてしまった。	女性	40代
油がはねた	鉄板焼きの時に、油がはねて顔を火傷した。	男性	50代
	誰かが焼いていたものの油がはね、被害を受けた。鎖骨のあたりに飛んできた。赤くなった。	女性	30代

シ)【カセットコンロ】

「カセットコンロ」によるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの詳しい状況については、「調理中に油や食材に触れた」が35件と最も多く、次いで「急に炎が大きく燃え上がった」が31件、「火に身体が触れた」が27件と続く。(図18)

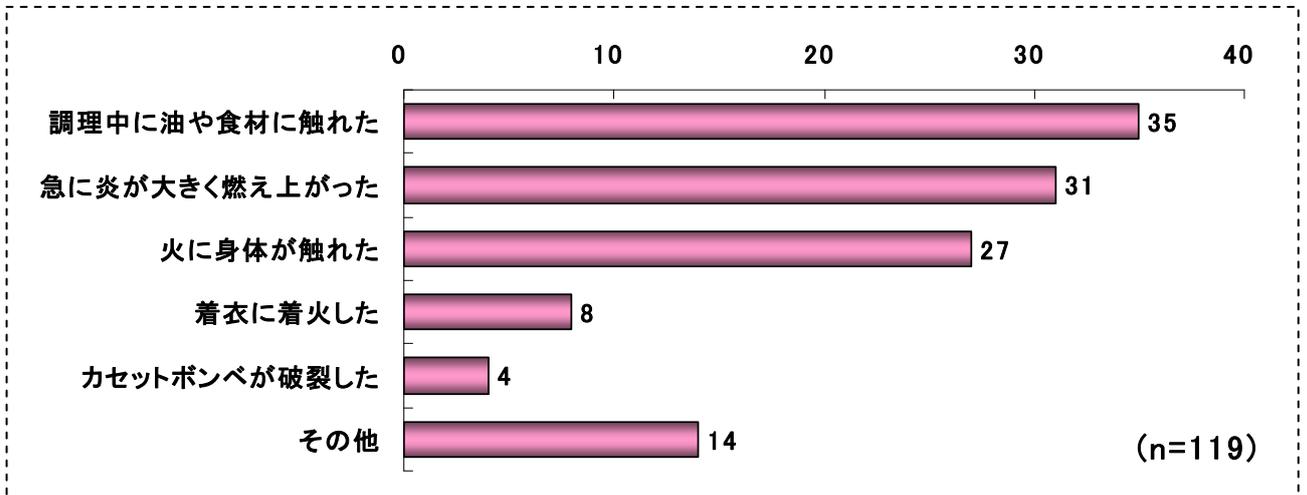


図18 カセットコンロによるやけどの危害、ヒヤリ・ハットを経験した状況

◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
調理中に油や食材に触れた	火を調節しようとしてコンロに近づいたら鍋のお湯が飛んでやけどした	女性	40代
着衣に着火した	鍋を食べようとしてよそっている途中、絆纏の袂の長さを忘れて炎に接触、少し焦がしてしまった	男性	40代
カセットボンベが破裂した	料理中にカセットコンロの火が消えてしばらく気が付かなかつたら ボンベが音をたてて破裂した	女性	50代

ス)【ガス瞬間湯沸かし器(給湯器)】

「ガス瞬間湯沸かし器(給湯器)」によるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの状況については、「お湯の温度設定を間違えた」が14件と最も多く、次いで「急に熱湯が出てきた」が6件、「熱湯がはねた」が同じく6件と熱湯による事例が多い。

その他の事例としては「熱くなっている給湯器本体に触れた」、「給湯器のカバーを外したとき熱い蒸気に触れた」等の回答があった。

◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
お湯の温度設定を間違えた	温度調節しようと思ってうっかり高温に調整してしまった。	女性	30代
	点けた瞬間に熱すぎるお湯が出てやけどしそうになった。	男性	30代
急に熱湯が出てきた	蛇口から出る湯が急に熱くなった。	男性	40代
熱湯がはねた	器にお湯を入れようとしたとき、勢い良くお湯が出て、手に降りかかった。	男性	20代

セ)【電気食器洗機】

「電気食器洗機」によるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの詳しい状況については、「蓋を開け熱風に触れた」が9件と最も多く、次いで「乾燥直後の食器に触れた」が4件、「蒸気口に触れた」が同じく4件となっている。

◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
蓋を開け熱風に触れた	すぐに取り出そうとしたら熱すぎた。	男性	30代
	熱風乾燥のあとすぐに扉を開けて熱風に触れた。	男性	40代
	中の食器が予想以上に熱かった。	女性	30代
乾燥直後の食器に触れた	乾燥後の食器に触れたら高温だった。	女性	30代
蒸気口に触れた	蒸気にうっかり当たった。	男性	30代

(4) 居間・居室等におけるやけどについて

ア 居間・居室におけるやけどの危害又はヒヤリ・ハット経験をした製品

居間・居室においてやけどの危害又はヒヤリ・ハットを経験した365人にどのような製品で経験したか質問したところ、「アイロン」により危害又はヒヤリ・ハットを経験したとの回答が232件と最も多く、次いで「電気ストーブ」が67件、「カイロ」が63件と続く。他の品目と比べ、「アイロン」が突出して多いことがわかる。

危害の割合については、「カイロ」が全63件中26件(41.2%)と、実際にやけどをしている事例が多く見られる。(図19)

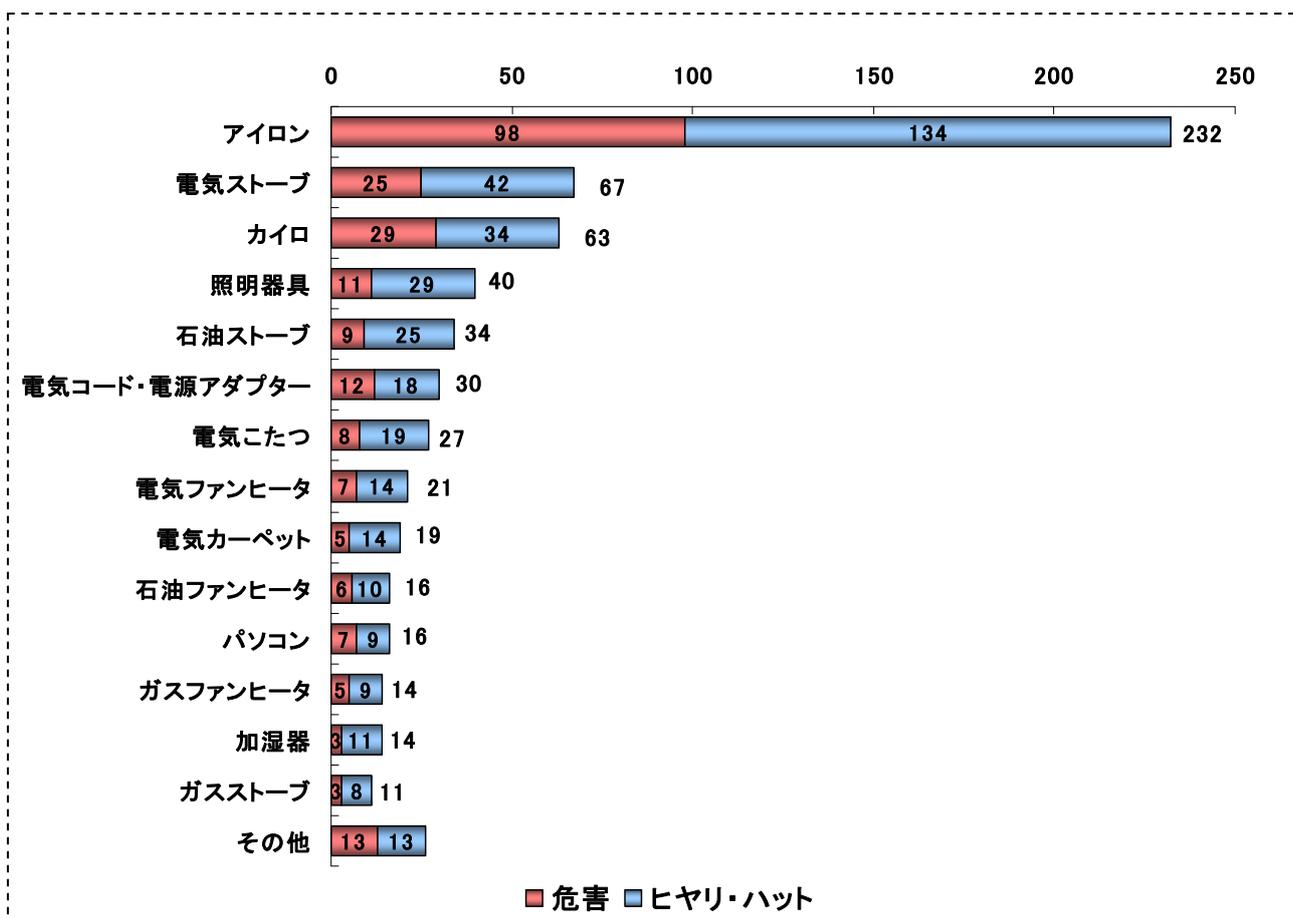


図19 居室にある製品等でのやけどの危害又はヒヤリ・ハット経験

イ 製品別 やけどによる危害又はヒヤリ・ハット経験の状況

ア)【アイロン】

アイロンによりやけどの危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況については、「使用中に触れた」が162件となっており、次いで「使用後に冷めたと思い触れた」が43件、「使用中に蒸気がかかった」が22件と続く。(図20)

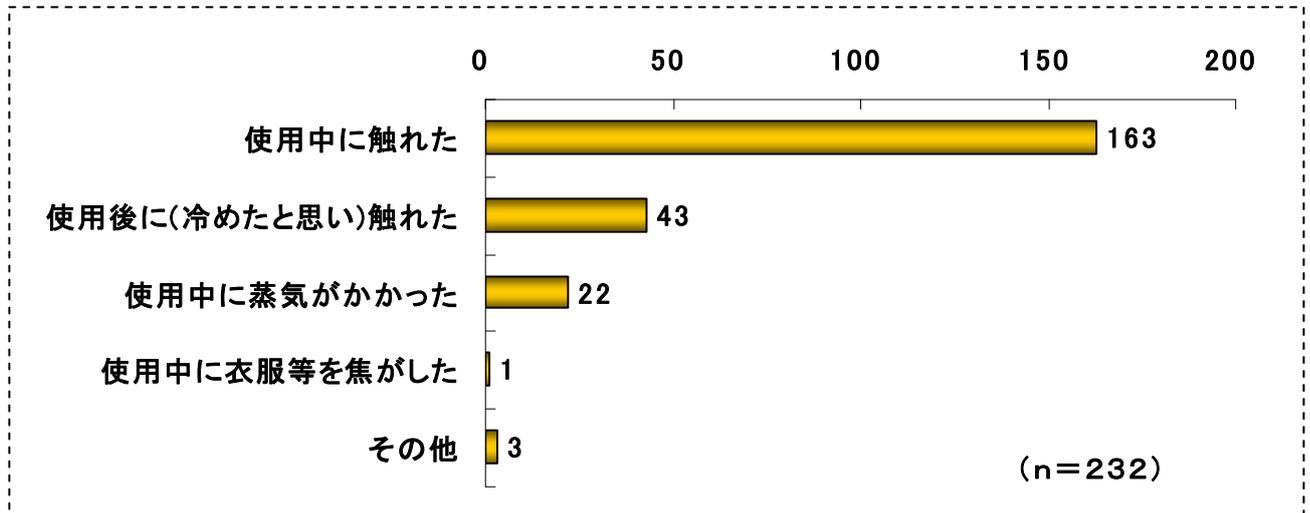


図20 アイロンによるやけどの危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況

具体的事例

項目	内容	性別	年齢
使用中に触れた	アイロンがアイロン台から落ちたときに足にぶつかりそうだった。	男性	50代
	アイロンをかけている時に、うっかりして先のところに触れてしまった。	女性	50代
	アイロンがけ中、間違えて熱い部分に触れてしまった。	女性	50代
使用後に冷めたと思い触れた	アイロンがけが終わり、冷めるまで端に置いてあったのに、足が接触。瞬間的だった為、火傷まではしなかった。	男性	30代
	アイロンがもう冷めていると思って、雑に扱ったら触れてしまって熱かった。使い慣れてないアイロンで、使っている時、先が指に触れてしまった。	男性	60代以上
	アイロンをかけ終わって片付けようとしたときに、手が滑って慌てて拾ったらまだ熱い部分に触れてしまった。	女性	30代
使用中に蒸気がかかった	アイロンから出てきた蒸気で、指をやけどしそうになった。	男性	30代
	アイロンをかけているときに蒸気があたってやけどしそうになった。アイロンをかけているときにアイロンが手に当たって手をやけどした。	女性	40代
	アイロン中、蒸気が急にあふれ出てきて、かなり熱い思いをした。	女性	30代



イ)【電気ストーブ】

電気ストーブにより危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況については、「近付きすぎた」が36件と最も多くなっている。次いでストーブに「触れてしまった」が15件、「物がふれて着火」が14件と続く。(図21)

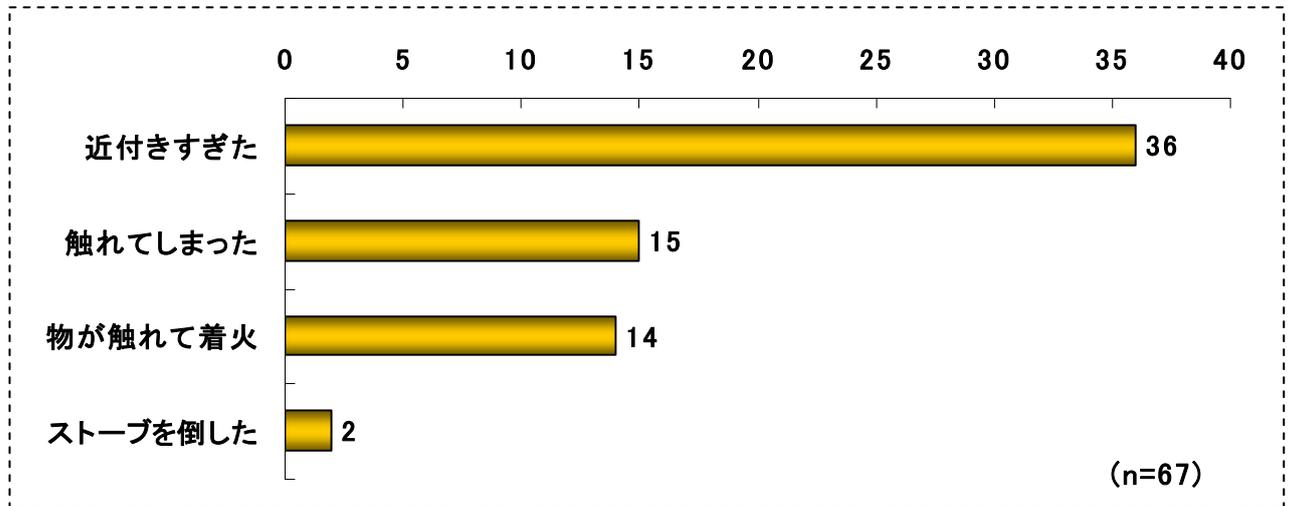
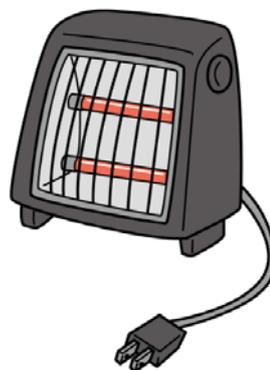


図21 電気ストーブによるやけどの危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況

具体的事例

項目	内容	性別	年齢
近付きすぎた	うたた寝をしてストーブに顔を寄せてしまった。	男性	30代
	電気ストーブの前でうたた寝をしてしまい、ひざ下部分をやけどした。	女性	20代
触れてしまった	後ろにあるのを忘れ、下がったら足があたり火傷しそうになった。	女性	50代
	噴出し口に触ってしまった。	男性	60代以上
物が触れて着火した	足元で使っていて、スリッパを焦がしてしまった。	男性	30代
	付けたまま寝てしまい気が付いたら、クッションがストーブに付いてしまい、焦げてしまった	女性	50代



ウ)【カイロ】

カイロにより危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況については、「直接肌に触れた・貼った」が27件と最も多くなっている。次いで「長時間の使用」が26件、「複数個・複数回の使用」が3件と続く。(図22)

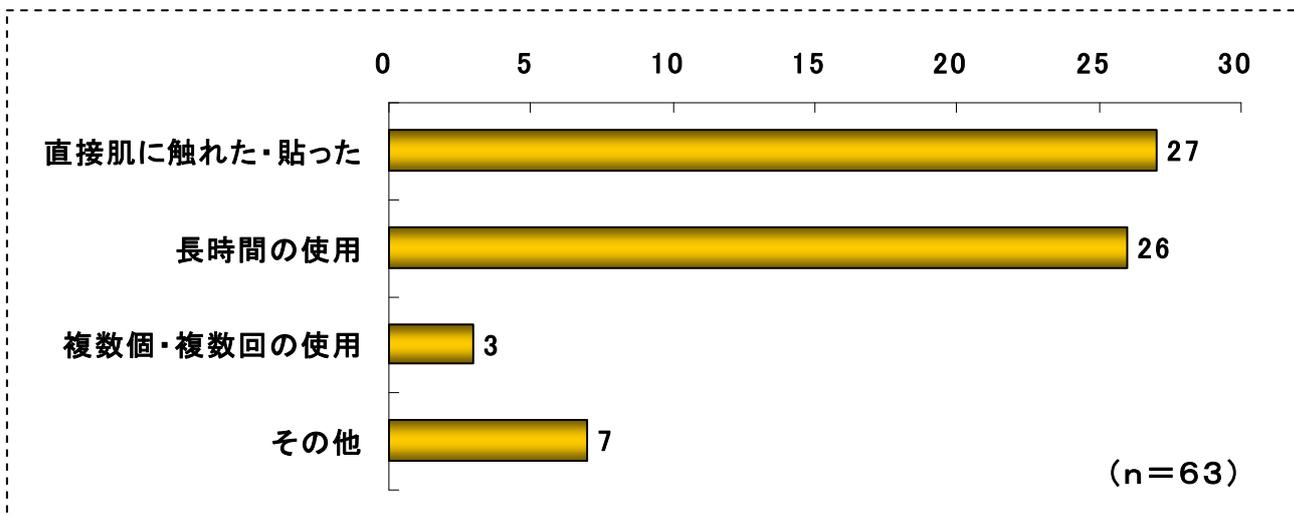


図22 カイロによるやけどの危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況

具体的事例

項目	内容	性別	年齢
長時間の使用	寝るときに同じところに長時間当てていて低温やけどしそうになった。	男性	50代
	なぜか熱くなってきて肌が赤くなっていたとか。	女性	40代
直接肌に触れた・貼った	お腹に当てて低温火傷した。	女性	30代
	薄い下着の上に貼って、皮膚が赤くなってしまった。	女性	60代以上
複数個・複数回の使用	何重にも重ねて使っていたら、やけどっぽくなった	女性	50代

エ)【ファンヒーター（電気・石油・ガス3種の合計）】

ファンヒーターにより危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況については、「近づきすぎた」が31件、「吹き出し口に触れた」が9件と続く。（図23）

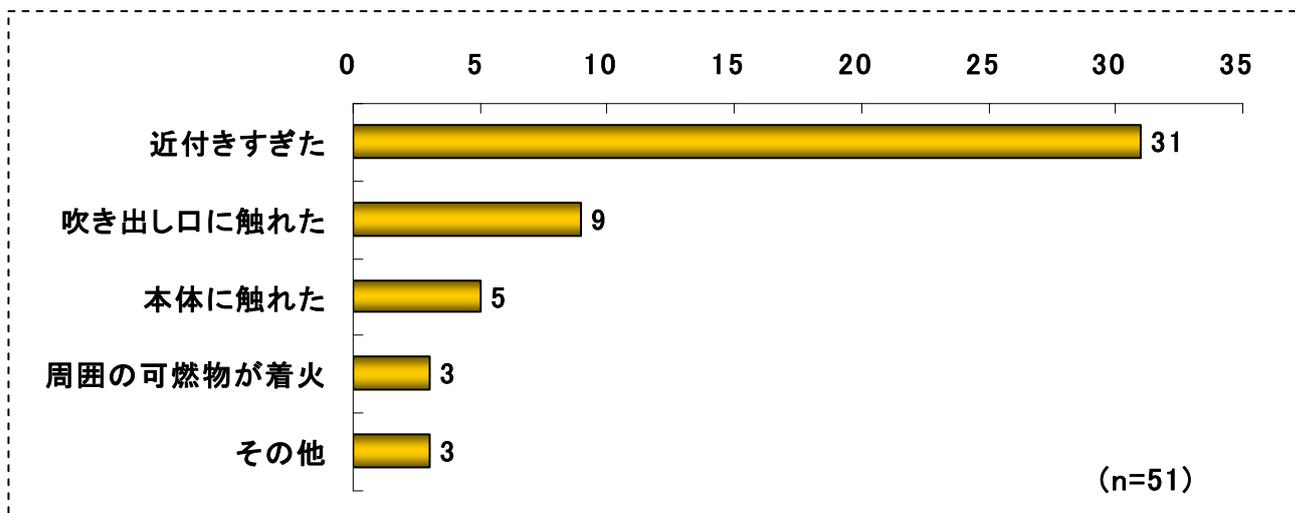


図23 ファンヒーターによるやけどの危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況

◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
近づきすぎた	ヒーターをかけたまま寝てしまい、熱風の吹き出し口のそばに手があり、直接熱風が当たっていた。その腕に金属製の腕時計をはめていたため、危うく手首をやけどしかけた。	男性	40代
吹き出し口に触れた	何かの拍子に吹き出し口に足を触れさせてしまった	女性	40代
ヒーター本体に触れた	前面の高温部分にタッチしてしまった。	女性	50代
周囲可燃物が着火	少しゆったりめでふっくらした暖かいはんてんを着ていた時、ファンヒーターのそばで作業をしていると、はんてんから香ばしい匂いがしたのに気が付いた。大きめのはんてんだったので気づかない内に裾の部分がファンヒーターの吹き出し口に触れていたと思われる。	男性	40代

オ)【照明器具】

照明器具により危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況については、「電球交換時に触れた」が20件と最も多くなっている。次いで「うっかり触れてしまった」が18件と続く。(図24)

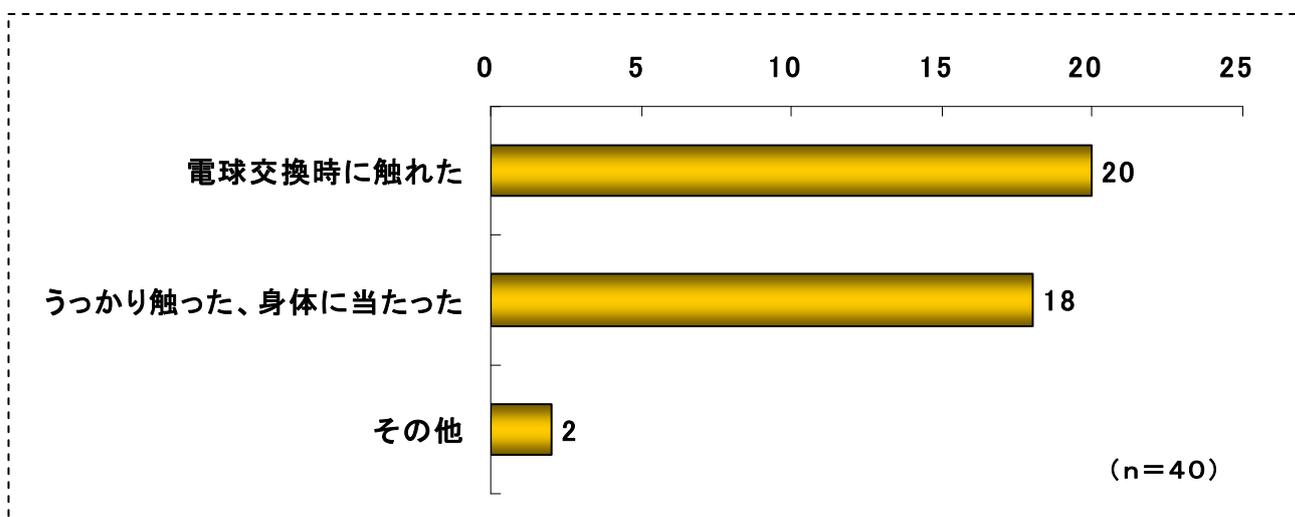


図24 照明器具によるやけどの危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況

◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
電球交換時に触れた	LEDなので大丈夫だと思って金属製のスタンドにふれたら非常に熱くなっていた。	女性	20代
	照明器具を外そうとしたら思ったより熱くてびっくりした。	女性	50代
うっかり触れてしまった	そんなに熱くないと思って触れたら熱かった。	男性	40代

カ)【石油ストーブ】

石油ストーブより危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況については、「触れてしまった」が21件と最も多くなっている。次いで「近づき過ぎた」が6件、「ストーブの上のものに触れて」が4件と続く。(図25)

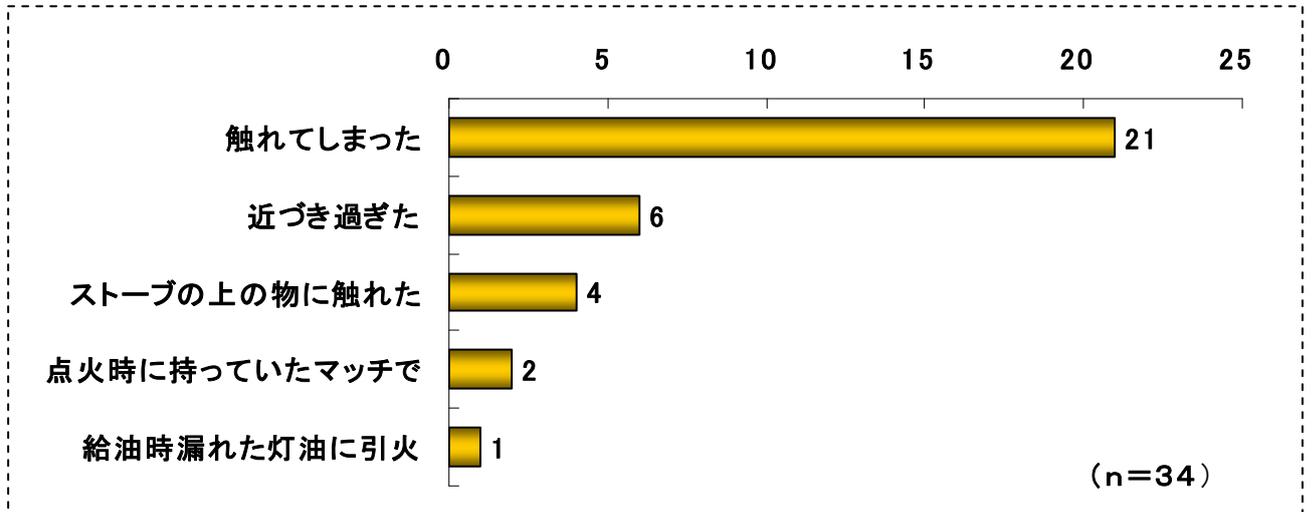


図25 石油ストーブによるやけどの危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況

◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
触れてしまった	うっかり接触しそうになった。	男性	30代
	燃焼塔に触れて。	男性	30代
近づき過ぎた	ストーブの前で寝てしまった。	男性	60代以上
	後ろ向きに立っていて、ズボンが熱くなった。	女性	40代
ストーブの上のものに触れて	ストーブの上で焼き芋を作っていたら発火した経験あり。	男性	30代
	上で水をいれたやかんが沸騰して空になってしまった。	男性	30代

キ)【電気こたつ】

電気こたつにより危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況については、「長時間入っていてやけど」が15件と一番多く、発熱部分に触れたが10件と続いている。

◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
長時間入っていて	入ったまま寝てしまい、起きたら足が熱く皮膚がまだらに赤くなっていました。	女性	20代
	父親が、一日中コタツに入っていて脚が赤くなり皮がむけ低温やけどをした。	男性	50代
発熱部分に触れた	こたつのヒーターを囲んでいる網に素足が当たり、熱い思いをした。こたつは「強」にしていた。	女性	60代以上
	発熱部分に近いカバーに、足の向きをかえた際に触れそうになった時にひやっとした。	女性	30代

ク)【パソコン】

パソコンにより危害又はヒヤリ・ハットの経験については、「熱を持っている部分に触れた」が6件、長時間、身体に接触させての使用によるやけどが4件と続く、その他には「排気口からの熱風に触れた」や「突然、発煙してヒヤリとした」等の事例があった。

◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
熱を持っている部分に触れた	ノートパソコンのACアダプタに足が触れてしまい、とても熱くてヒヤリとした。	女性	60代以上
体と接触させての長時間使用	膝の上で長い時間、使い低温火傷しそうになった。	女性	50代
排気口からの熱風に触れた	本体横の吹き出し口を触ったところ熱風が出ていた。	男性	50代

ケ)【加湿器】

加湿器により危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況については、「蒸気に触れた」が9件と最も多くなっている。次いで「本体に触れた」が4件、「電気コードに触れた」が1件と続く。

◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
蒸気に触れた	加湿器の蒸気に当たってもやけどをしないだろうと手を当てたところ、とても高温で、急に手のひらが赤くはれ上がってしまった。	男性	30代
	うっかりして蒸気の上に皮膚が当たってしまった。	女性	30代
本体に触れた	本体が熱くなっていた。	男性	20代
	加湿器に水を足そうとしたときに、吹き出し口部分に触れてしまった。	女性	30代

コ)【ガストーブ】

ガストーブにより危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況については、ストーブ本体に「触れてしまった」が7件で、その他の事例としては、近く過ぎて「衣服が熱くなった」や「近くにおいていた毛布がストーブに触れ着火した。」等があった。

◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
触れてしまった	消した後、つい手をついてしまった。	男性	50代
	後ろ向きで当たっていて、バランスを崩して接触してやけどした。	男性	20代
近くにおいてあった物が燃えた	ガストーブの近くで寝ていて毛布に引火している事に気がつかなく熱くなり気がつき、煙に気が付き消火している時に火傷した。	男性	50代

(5) 浴室・洗面所・トイレ等におけるやけどについて

ア 浴室・洗面所・トイレ等におけるやけどの危害又はヒヤリ・ハット経験をした製品

浴室・洗面所・トイレ等においてやけどの「危害」又は「ヒヤリ・ハット」を経験した304人に、どのような製品で危害又はヒヤリ・ハット経験したか質問したところ、「シャワー」と回答した人が149件と一番多く。次いで「浴槽内」が104件、「ヘアドライヤー」が102件と続く。

「危害」について見てみると、他の品目と比較して「ヘアドライヤー」は33件(32.4%)、「ヘアアイロン」は29件(33.7%)と実際にやけどをした事例が多いことがわかる。

(図26)

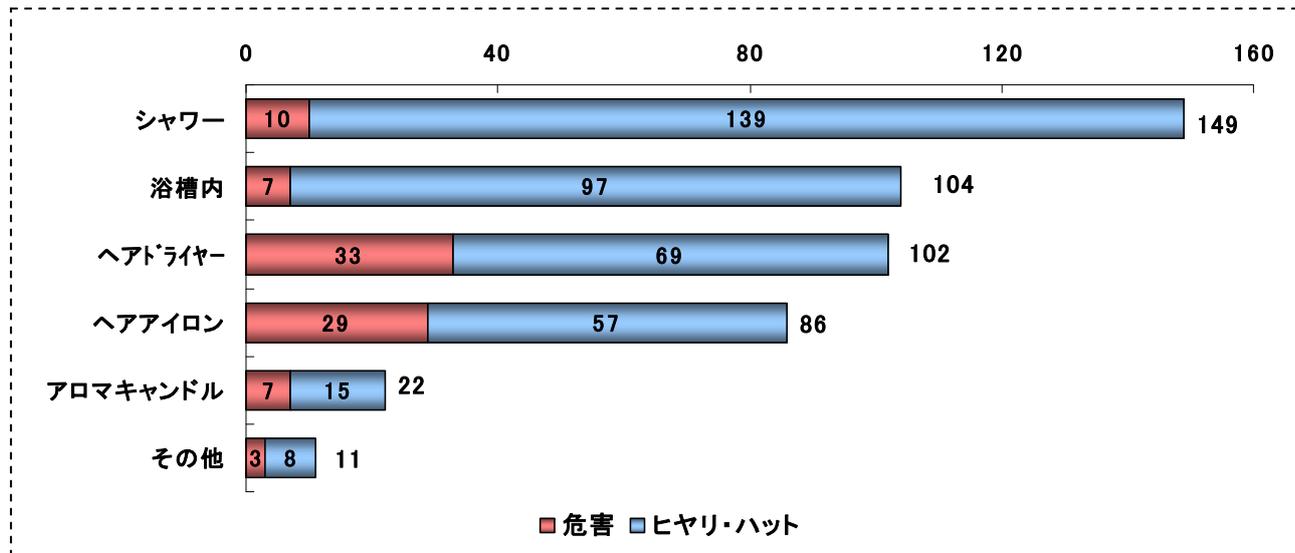


図26 浴室・洗面所・トイレ等における「危害」・「ヒヤリ・ハット」経験

イ 製品別 やけどによる危害又はヒヤリ・ハット経験の状況

ア)【シャワー】

シャワーによるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの経験については、「温度の誤調節」に関するものが75件と最も多く、次いで「急に熱いお湯が出た」が48件と続いている。(図27)

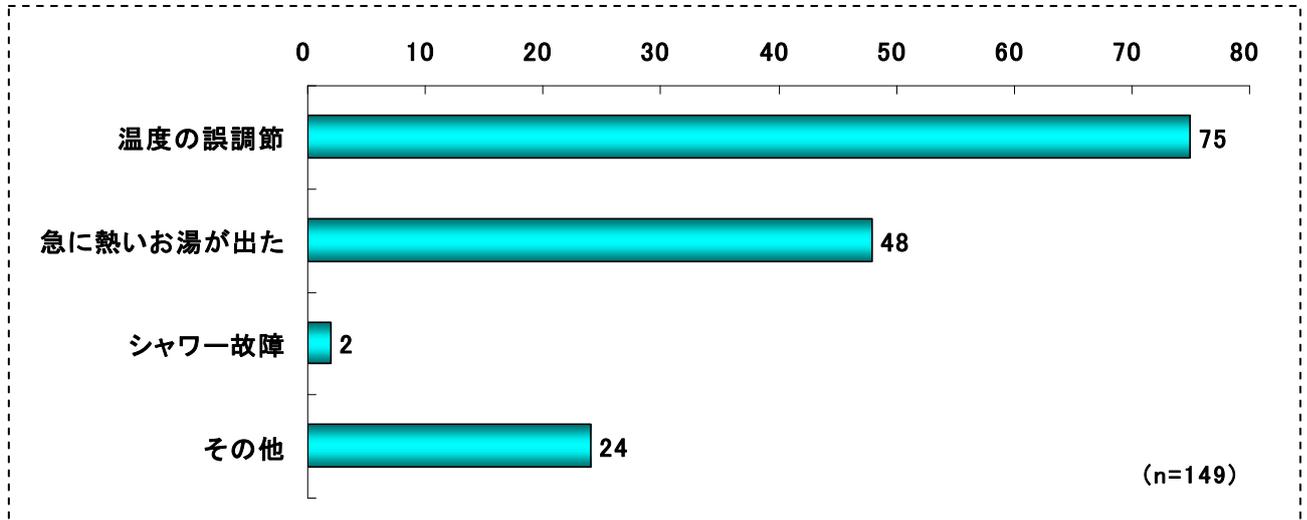


図 27 シャワーによるやけどの「危害」・「ヒヤリ・ハット」経験をした状況

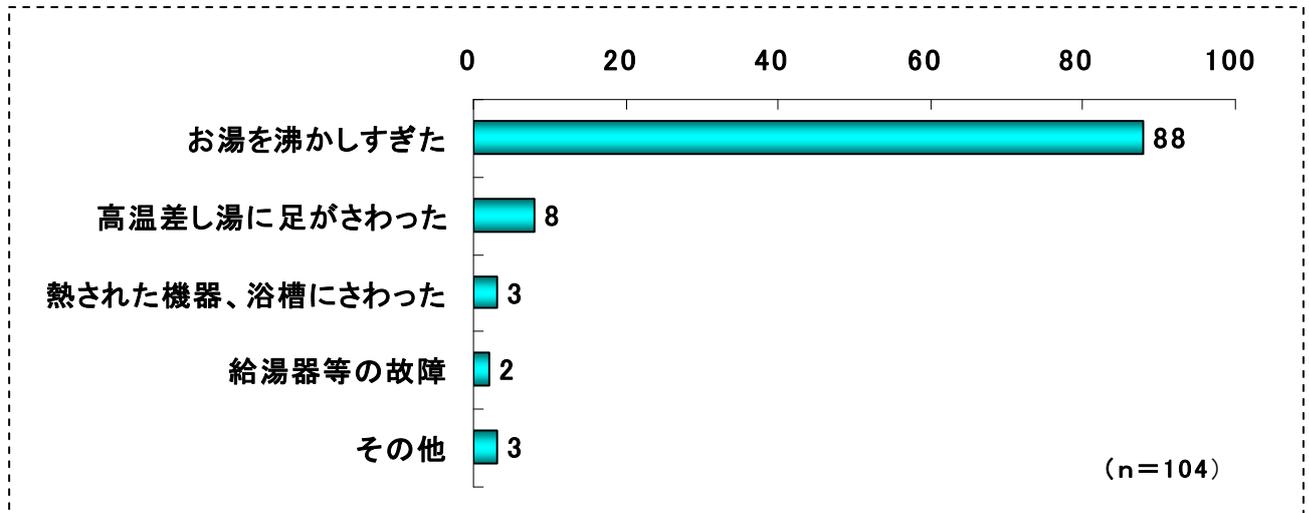
◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
温度調節	温度の設定を60度にしたまま忘れていて、そのままシャワーを浴びそうになった	男性	30代
	台所でお湯が必要だったので70度に設定していたのを忘れていてそのままシャワーも70度浴びてしまった。	男性	30代
急に熱い湯が出た	シャワーを使おうと思ったら、急に高温のお湯が出てヒヤリとした。	女性	60代以上
	シャワーの途中でいきなり熱湯に変わってしまった事があり驚いた。	男性	60代以上
その他	シャワーの金属部分が物凄く熱くなっているのを知らずに、触れてしまって指をやけどした。	女性	30代



イ)【浴槽内】

浴槽内におけるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの経験については、「お湯を沸かしすぎた」が88件となっており、その他の回答と比べかなり多い。(図28)



◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
お湯を沸かしすぎた	夏場で予想以上にお湯が沸いていた。	男性	50代
	温度を熱く設定しすぎて、やけどしそうになった。	男性	20代
高温差し湯に足がさわった	湯沸かししながら入浴していてかき回さないでいたら、熱い熱流が足の一部に当たった。	男性	40代
	高温差し湯に足がさわった。	男性	60代以上

ウ)【ヘアドライヤー】

ヘアドライヤーによるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの経験については、「加熱しすぎた・同じ場所に当て続けた」が31件と最も多く、「吹き出し口や加熱された金具に触れた」が21件、「本体が発火した、火花が出た」が16件と続く。(図29)

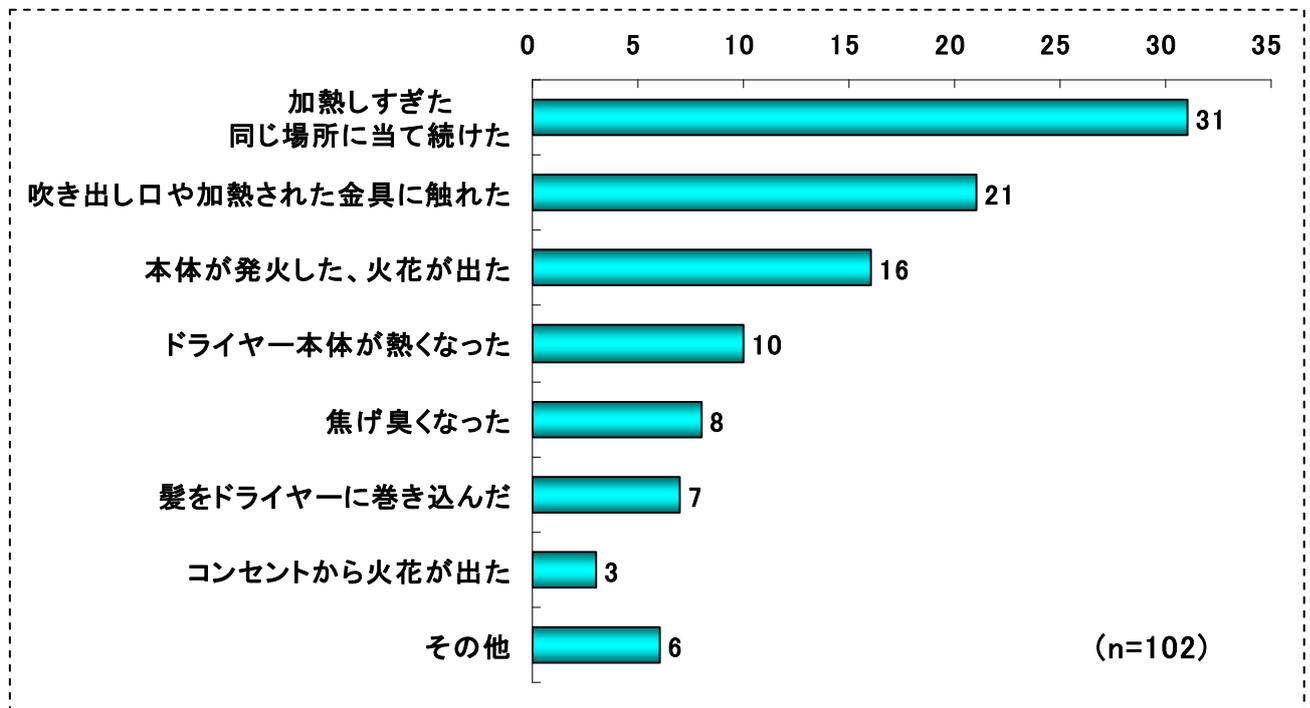


図29 ヘアドライヤーによるやけどの「危害」・「ヒヤリ・ハット」経験をした状況

◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
加熱しすぎた 同じ場所に当て続けた	ぼんやりドライヤーをしていたら一か所に充てすぎて髪が焦げた。	女性	50代
	熱が強すぎて、髪の毛が熱くなった。	女性	30代
	使用中に急に熱くなり頭をやけどしそうになった。	男性	60代以上
吹き出し口や加熱した金具に触れた	風の吹き出し口あたりを触ってしまい熱かった。	女性	40代
	ドライヤーをかけていたら、ドライヤーの吹き出し口のプラスチックの部分がはずれて落ちた。すごく熱を持っていたので、手に当たってすごく熱かった。	女性	30代

エ)【ヘアアイロン】

ヘアアイロンによるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの経験については、「加熱部に手が触れた」が39件と最も多く、次いで「加熱部を頭皮、顔、耳等に当ててしまった」が33件と続いている。使用中に直接、肌に触れたことによる事例が多数を占めている。(図30)

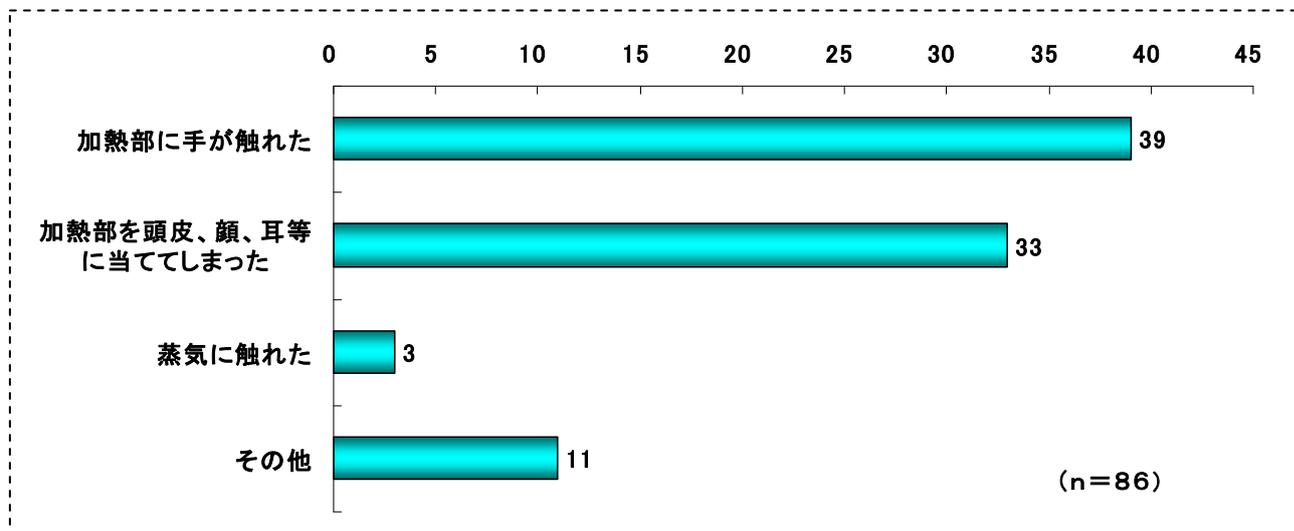


図30 ヘアアイロンによるやけどの「危害」・「ヒヤリ・ハット」経験をした状況

◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
加熱部に手が触れた	熱くなったアイロンについ触れてしまって、手が赤く腫れ上がりそうになったが、すぐ水で冷やしたのでやけどせずに済んだ。	女性	30代
	使い終わったアイロンをしまおうとして触ったらまだ熱くてやけどした。	女性	40代
加熱部を頭皮、顔、耳等に当ててしまった。	急いで使用していたら耳にアイロンを当ててしまった。	女性	20代
	髪をセットするのに、高温にして使ったので、首筋にアイロンが触ってしまいやけどした。	女性	50代

オ)【アロマキャンドル】

アロマキャンドルによるやけどの危害又はヒヤリ・ハットの経験については、「キャンドルに近づいた・触れた」が8件と最も多くなっている。次いで「キャンドルを倒した」、「周りの物に火がついた」、「溶けたロウに触れた」が3件と続く。

◆具体的事例◆

項目	内容	性別	年齢
キャンドルに近づいた・触れた	室内でアロマキャンドルを使用中に香りを近くでかごうとしてしまい、鼻をやけどした	女性	40代
	炎の上を手をかざしてしまった。	女性	40代
キャンドルを倒した	火の点いたアロマキャンドルが何かの拍子で倒れ、すぐに気付いたので大事には至らなかったがヒヤリとした。	女性	60代以上
周りの物に火が着いた	つけっぱなしにしてうたた寝していたら、アロマキャンドルの火がベッドのそばの家具に燃え移りそうになっていたが、その前に気づいたので難を逃れた	女性	30代

(6) 寝室におけるやけどについて

ア 寝室におけるやけどの危害又はヒヤリ・ハット経験をした製品

寝室においてやけどの「危害」又は「ヒヤリ・ハット」を経験した133人に、どのような製品で、危害やヒヤリ・ハット経験をしたか質問したところ、「湯たんぽ」で経験したと回答した人が64件と最も多く、次いで「電気あんか」の27件、「電気ストーブ(ファンヒーターを含む)」が26件と続く。「湯たんぽ」、「電気あんか」については実際に「危害」に至った件数が半数以上を占めている(図31)

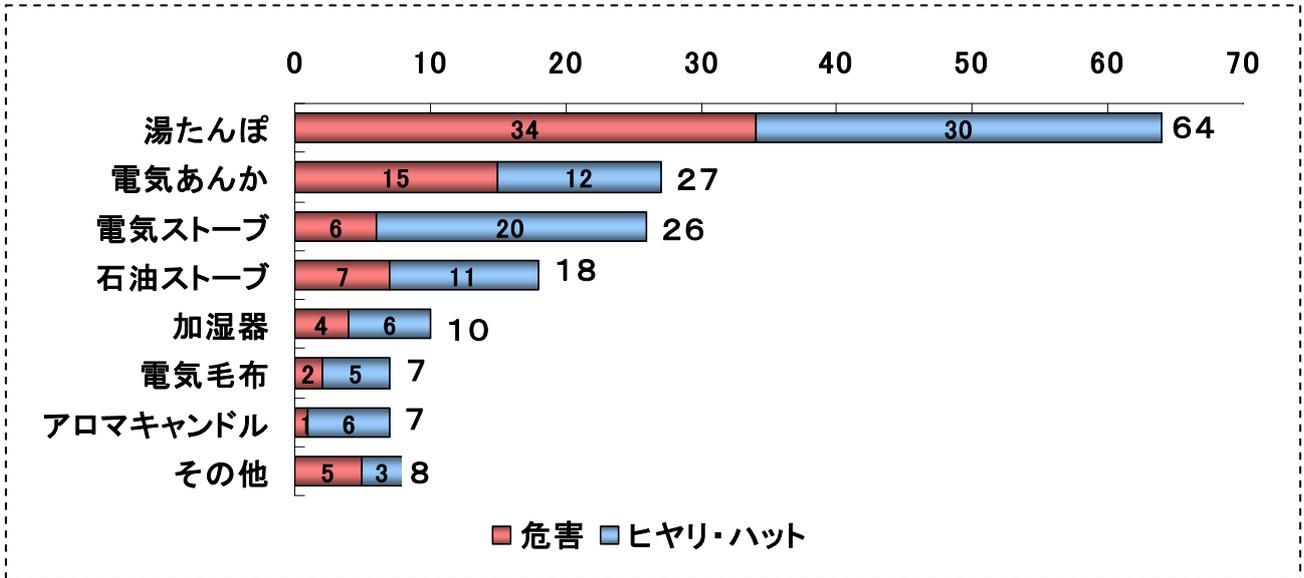


図 31 寝室における「危害」・「ヒヤリ・ハット」経験

イ 製品別 やけどによる危害又はヒヤリ・ハット経験の状況

ア)【湯たんぽ】

湯たんぽにより危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況については、「長時間の使用によりやけどした」が34件と最も多くなっている。次いで、カバーが外れる等して、「湯たんぽが直接肌に触れた」が14件、「お湯がかかった」が7件と続く。(図32)

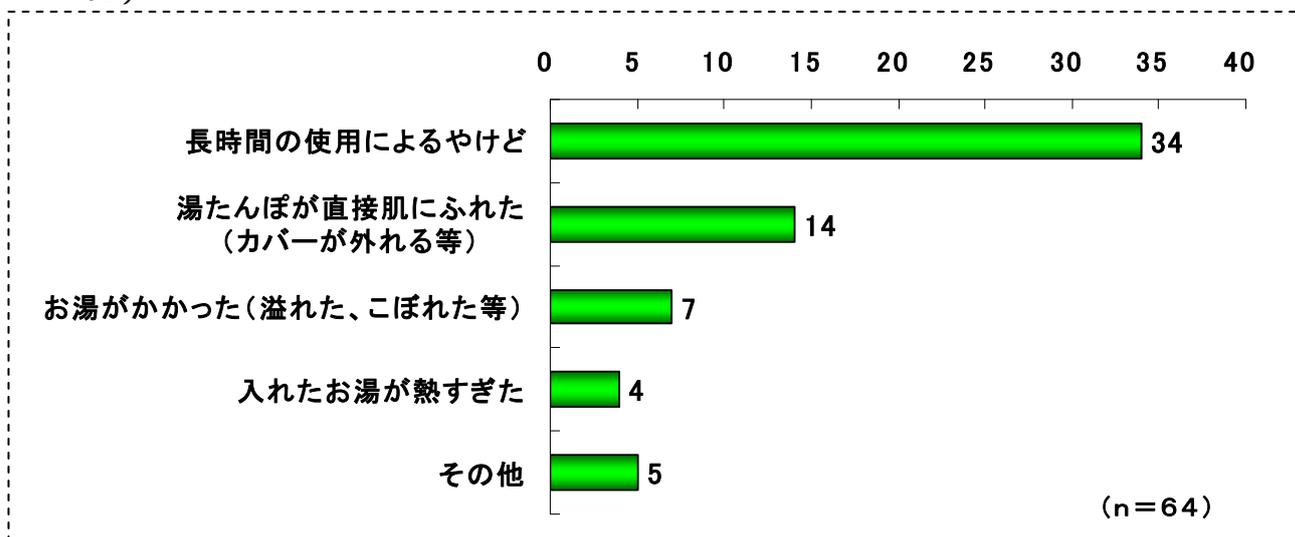


図 32 湯たんぽによるやけどの「危害」・「ヒヤリ・ハット」経験をした状況

具体的事例

項目	内容	性別	年齢
長時間の使用によりやけどした	ひざの上に置いていたら低温やけどになってしまった。	男性	40代
	足で挟むようにして、毎晩、使っていたら、低温やけどして跡がなかなか治らなかった。	男性	50代
湯たんぽが直接肌に触れた	巻いてあったタオルが外れて直接当たっていて、低温やけどになった。	女性	50代
	湯たんぽのカバーが外れていて、やけどしそうになった。	女性	50代
お湯がかかった (溢れた、こぼれた等)	お湯を入れようとして、入り口に当たりお湯がジャンプして手に掛かった。	男性	40代
	人から頂いたゴム製の湯たんぽに熱湯を入れ、持ち歩いていたらお湯が漏れてやけどしそうになった。	女性	20代

イ)【電気あんか】

電気あんかにより危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況については、「長時間の使用によりやけどした」が20件と最も多くなっている。次いで「直接肌に触れた」が4件、「温度設定を誤った」が3件と続く。(図33)

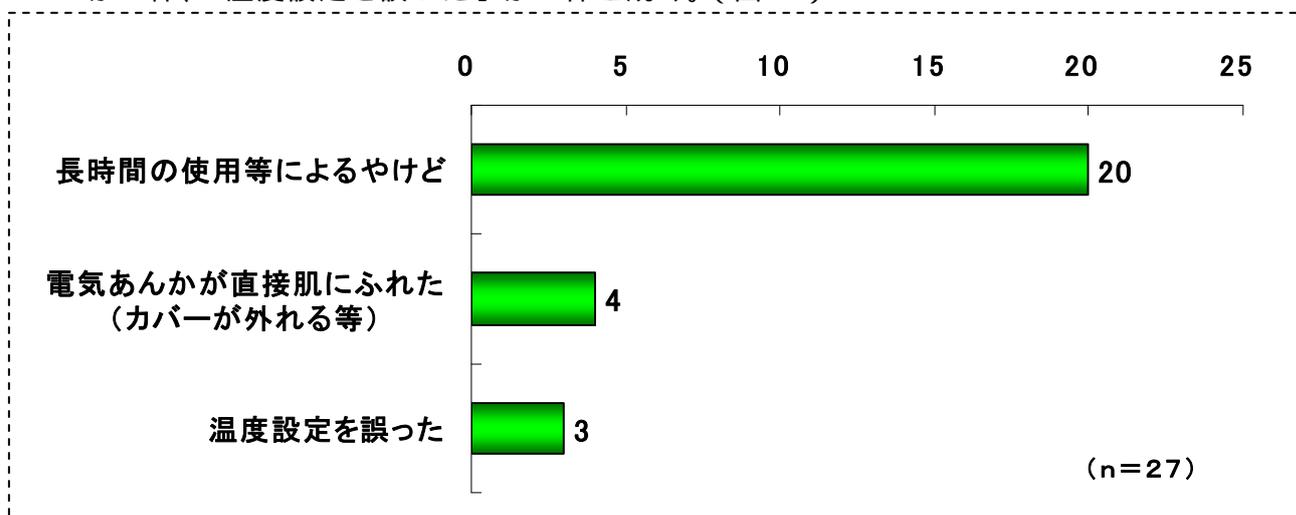


図33 電気あんかによるやけどの「危害」・「ヒヤリ・ハット」経験をした状況

具体的事例

項目	内容	性別	年齢
長時間の使用によりやけどした	夜寝ている時電気あんかに足首がずっとあたったままになっていて赤く軽い火傷をした。	女性	20代
	電気あんかを布団にいれて寝たところ、朝になって触れていたところが低温やけどになっていた。	女性	50代
直接 肌に触れた	じかに触ったら思いもよらず熱かった。	男性	40代
	直接足にあたってしまい、低温やけどになった。	女性	50代
温度設定を間違えた	電気あんかを太ももに挟んで寝ていたら、気づかぬうちに高温設定になっていて、朝、違和感…。二、三日後に火傷状態になっていた。思ったよりも深部の火傷で、治るのに随分かかった。	男性	60代以上
	足が冷えていて、設定温度を高めにしていて忘れたのだが、寝ている間に凄く熱くなっていてびっくりした。	女性	20代

ウ)【電気毛布】

電気毛布により危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況については、「長時間の使用によりやけどした」が6件、「温度が予想外に上昇しすぎた」が1件となっている。

具体的事例

項目	内容	性別	年齢
長時間の使用によりやけどした	長い時間電気毛布を掛けていたら足の指8本が低温やけどになり治るのに約6か月掛かった。	男性	50代
	それほど熱くしなかったのだが、直接電気毛布をかけて寝たら肌が真っ赤になっていた。	女性	30代
	タイマーがついていないので夜つけっぱなしで寝たら低温やけどしそうになった。少し脱水状態になった。	女性	30代

4 住宅以外におけるやけどの危害又はヒヤリ・ハットについて

(1) 【職場】

「職場」において、やけどの危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況については、「調理業務中」が99件と最も多く、「溶接・工作・工事中」が35件、「熱湯使用中」が30件と続く。(図34)

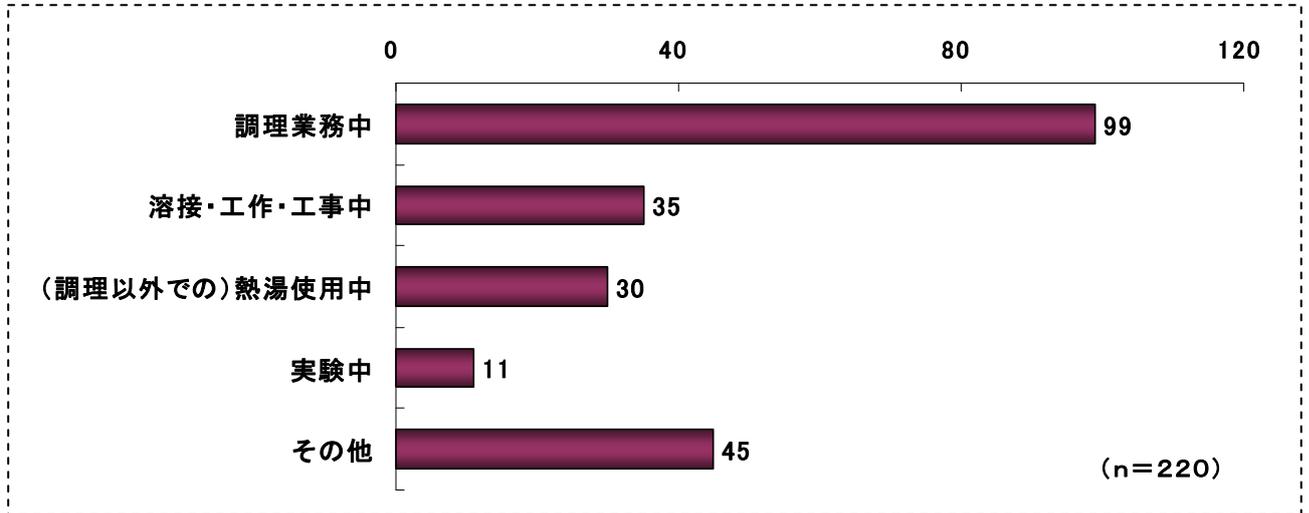


図34 職場においてやけどの「危害」又は「ヒヤリ・ハット」経験をした状況

(2) 【飲食店】

「飲食店」において、やけどの危害又はヒヤリ・ハットを経験した状況については、「熱い器に触れた」が68件と最も多く、次いで「熱い料理をこぼされた」が16件、「熱い料理を口に入れた」が15件と続く。(図35)

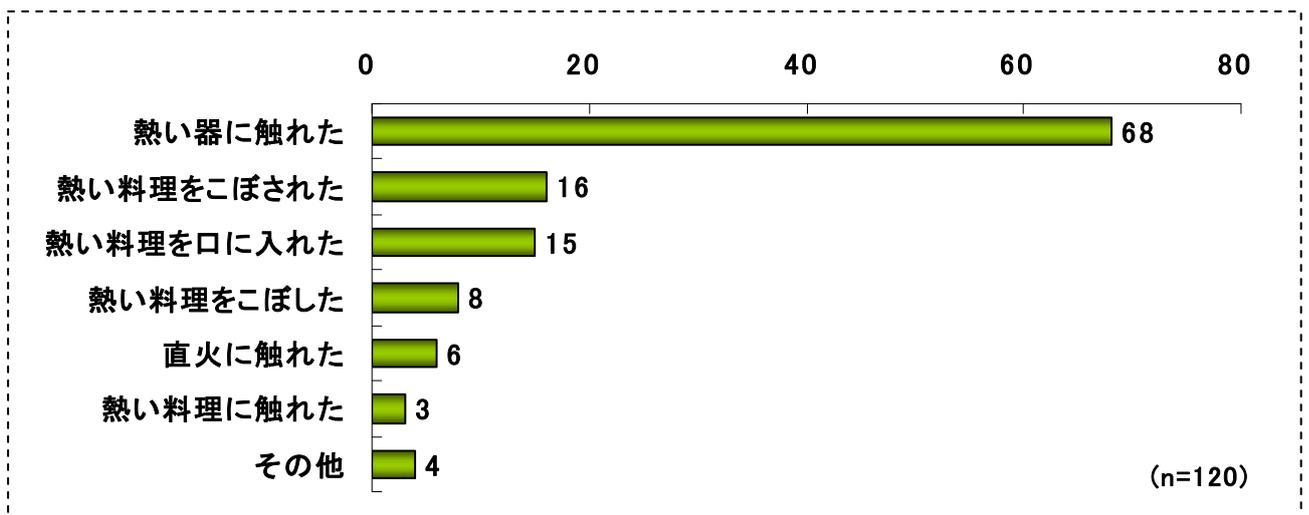


図35 飲食店においてやけどの「危害」又は「ヒヤリ・ハット」経験をした状況

(3) 【屋外】

「屋外」でのやけどの危害やヒヤリ・ハットが多かったものについては、「花火」によるものが42件と最も多く、バーベキュー用の鉄板が39件と続く。

夏場の強い日差しに熱せられた金属製品によりやけど若しくはヒヤリ・ハットしているとの事例も12件あり、意外なところにやけどの危険があることがわかる。

(図36)

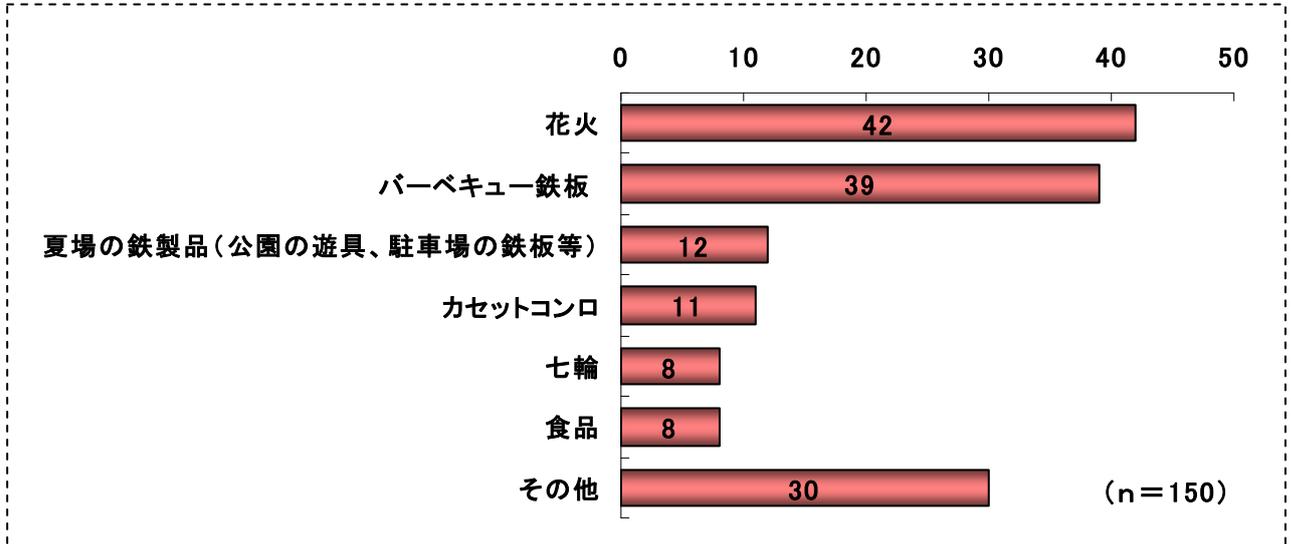


図36 屋外においてやけどの「危害」・「ヒヤリ・ハット」経験をした状況

5 やけどに至りそうな製品、サービスについて

「やけど」に至りそうだと思う製品やサービス等について質問したところ、「調理家電・器具」との回答が432人と最も多く、次いで、「季節家電・器具」が380人、「家事家電・器具」が355人と続いている。「その他」の中には、「アロマキャンドル」、「自動販売機の缶が熱すぎる」、「夏、屋外に置いてある金属で出来ているもの」等が挙げられる。(図37)

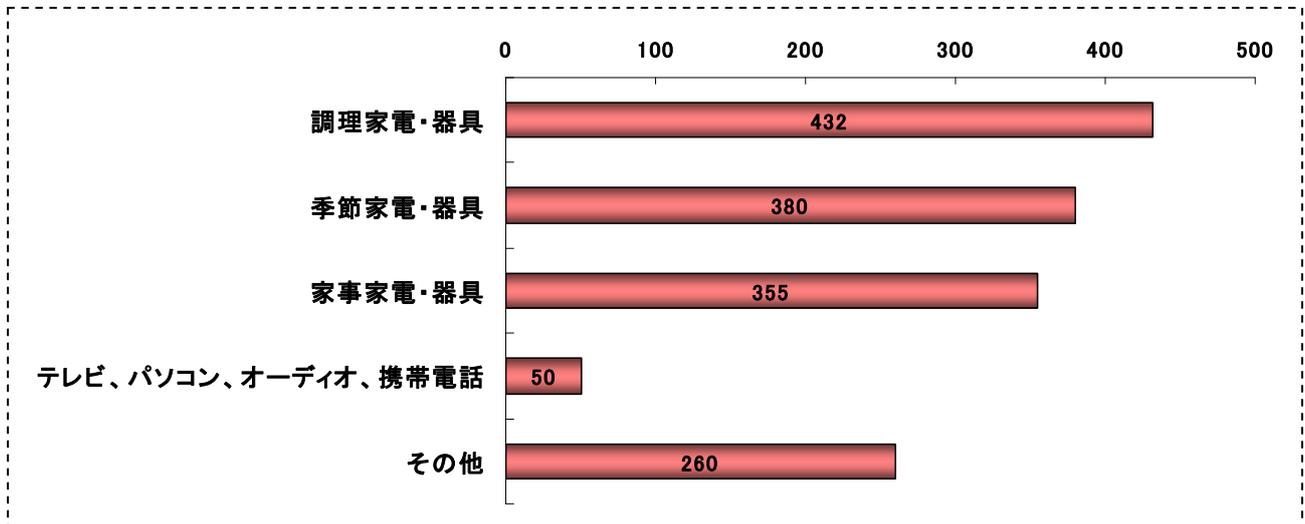


図37 やけどに至りそうな製品やサービス等について

やけどに至りそうな製品・サービス等についての回答例

項目	内容
調理家電・器具	電気ポットの蒸気口は危ないと思う。
	電子レンジでの食品の温めの際にお皿が熱くなっているのをつい忘れやけどをする。
	オーブントースター。本体自体がかなり熱いので、子どもがうっかり触ると危険。
	鍋の持ち手の部分が取り外しができるタイプの場合に、経年により、持ち手の部分が緩くなってしまい危なくなる。
暖房器具	ハロゲンヒーターでフリース素材のブランケットを焦がした経験がある。
	ホットカーベットで寝て低温やけどになる。
	湯タンポの低温やけどは、予想以上に完治するまでの時間がかかった。
	暖房便座でかなり熱く感じる時がある。
	ガスファンヒーターの温風吹き出し口の近くの温度が高くなるため、注意するようにしている。
家事家電・器具	布団乾燥機など高い電力を長く続ける製品はコンセントが過熱しやすいと思う。
	年数のたったドライヤーが、急に煙が出てきた。
	蛍光灯のソケット近くは危ない。
	ヘアアイロン・髪の毛を巻きつける時、どうしても熱くなっている部分に触れてしまう。
	給湯器。お湯を出しているのになかなか温かくならないと思えば、急に熱いお湯がどんどん出てくることもある。
	電気スチームアイロンの蒸気でひやりとした時がある。ドライヤーの吹出口がかなりの高温になっている。
	ライターの最初の点火時に大きな火柱が出ることがある。
アイロン 常に熱を持っているので子供がいると危ないと思う。	
テレビ・パソコン・オーディオ	スマートフォン 充電しながら複数のアプリを立ち上げていると裏側が異常加熱しやけどしそう。
	古くなった電化製品やほこりのたまったコンセント。
	ノートパソコンを足の上において長時間操作していると低温やけどをしそう。
	携帯の電池パック部分が異常発熱したことがあり、ポケットに入れていた為、太もも部分がやけどしそうになった。
その他	夏、屋外に置いてある金属で出来ているもの。
	走行したばかりの オートバイのマフラー。
	花火で皮膚に少しやけどができた。
	回転すし屋のお茶用の給湯部分が結構怖いと思う。湯飲みを強く押し付けて入れるが、ちょっとずれたら熱湯が手に注がれそう。
	お線香が子供の手の届く位置に置いてあると危険。実際に子供がお線香の燃えている部分に触って火傷をした。

6 まとめ

今回の調査において回答者の半数以上が、やけどした、しそうになった経験があると回答している。

やけどをした、しそうになったと答えた回答者を年代別で見ると、40代、50代が多く見られるが、極端な差異は見られなかった。

また、事例をそれぞれ見てみると、「熱くなったフライパンに触れた。」、「電気ストーブに近づき過ぎた。」、「給湯器の温度設定を間違えた」等、ほとんどが家事作業中の事例であり、日常生活における身近な状況で、誰もがやけどを負う危険性があると言える。

今回の調査で回答された事例の大部分はヒヤリ・ハット事例が占めており、医療機関を受診したり、入院する等の事例はほとんど存在しなかったが、同様な事例が乳幼児や高齢者において発生した場合は重症化する危険性も高いと思われることから、日常生活におけるやけど事故防止対策の必要性の高さがうかがえる。

平成 24 年度ヒヤリ・ハット調査
「日常生活に潜むやけどの危険」
報告書

平成 26 年 2 月
東京都生活文化局 消費生活部
生活安全課 商品安全係

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
都庁第一本庁舎 27 階中央
TEL : 03-5388-3055 (内線 29-853)